

学内広報

for communication across the UT



特集： ■ 高校生のためのオープンキャンパス2011開催

2012.1.25

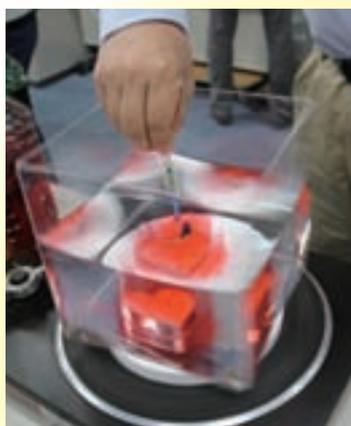
No. 1421



12月23日（金・祝）本郷地区キャンパスにて、「高校生のための東京大学オープンキャンパス2011」が開催され、約5000名の高校生で賑わいました。オープンキャンパスは、高校生・受験生に大学を公開し、本学への理解を深めてもらうためのイベントで、2000年度より毎年開催されています。例年8月初旬に開催されていましたが、今年は夏季の電力供給状況を勘案し、冬に延期されました。厳しい寒さの中、高校生たちの熱気で学内はたいへん賑わいました。当日の様様をご紹介します！



2 理学部

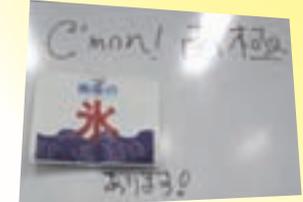


回転する地球の上で流体がどのようにふるまうかを見る実験。青い水を垂らすと…？

講演会や展示・ラボツアーなどたくさんの企画を実施。実験機器や動物に触れることができる企画や、今話題のLHC実験の講義など、最先端の科学を体感できる企画が目白押しでした。



(左) 新聞でもたくさん取り上げられているLHC実験についての講義。一般公開していたため、高校生だけでなくたくさんの方が耳を傾けました (右) マウスに触れる企画も



真冬に氷！？理学部には南極の氷がありました

3 工学部

2011年は「未来を切り拓く工学に触れる一日」というスローガンのもと、研究室見学や模擬講義、学生だんわ室など多彩な企画を実施。特に最先端のロボットを操作したり体験できる企画などが人気でした。



機械工学科の「高齢者や障害者の生活を支える技術」ではカートに試乗できました



(左) 航空宇宙工学科にはなんとフライトシミュレーターが！(右) 化学システム工学科の研究室見学「燃料電池で発電してみよう」の様

1 教養学部



今年は安田講堂で駒場キャンパス・学部学科紹介や講演会を行いました。教養学部オリジナルバックは参加者に大好評！



4 法学部

本格的な模擬講義や学生への質問コーナーは多くの高校生で賑わいました。



NHKのロボコンで優勝したRobo Techのロボットも！

6 バリアフリー支援室

支援機器やパネルの展示に加え、障害のある高校生からの入学後の支援に関する個別相談に応じました。



点字の打ち出しを体験できるコーナーも



9 東大ガイダンス

現役東大生の貴重な話を聞ける場である東大ガイダンス。大学生活や進路の疑問も解消できるこの企画は教室いっぱいに人が集まりました。



7 薬学部

少人数の研究室見学や薬学部学生による進学相談などを実施、多くの高校生が来場しました。

8 医学部

例年大人気の医学部では模擬講義のほか、昨年オープンした「健康と医学の博物館」の見学も行いました。

14 キャンパスツアー



現役東大生ガイドによるキャンパスツアーは構内の名所紹介だけでなく、他では聞けない学生生活のお話も聞けるとあって、今年も大人気。高校生向けに合格発表の掲示板設置場所も案内しました！



10 史料編纂所

多数の貴重史料を展示。中でも展示「新発見！倭寇図を科学する」では歴史の教科書にも載っている有名な「倭寇図巻」を興味深く解説！



誰もが教科書でみたことがある、「倭寇図巻」をクイズ形式などで分かりやすく解説！日本史・東アジア史研究の最先端へ来場者を誘いました

11 総合図書館

歴史と趣がある総合図書館を公開！高校生も東大生気分を味わえました。



OPAC検索—興味を持った本はあるかな？

12 総合研究博物館

『キュラトリアル・グラフィティー—学術標本の表現』展を開催。日本における「骨」と「先史」の研究史上の「名品」「優品」を一部初公開しました。

5 文学部

高校までとは一味違う、大学の学びを感じられる模擬講義や模擬ゼミを開催。教員の著書を自由にしながら、東大生とコミュニケーションできる展示も好評でした。



教員著作展示を見ると、さまざまな先生が色々な分野で活躍されていることを実感します



文学部スタッフはおそろいのパーカーでお出迎え

13 女子学生コース

東大を目指す女子高生が多数集まった「女子学生コース」。OGが語る『東大女子的life』に興味津々の様子。女子高生だけでなく、保護者にもたくさんご来場いただきました。



15 地震研究所

一般公開もしていた地震研究所には、高校生だけでなく家族連れやお年寄りなどたくさんの方が来場しました。来場者は地震計博物館や研究展示・学生実験などを熱心に見学・体験していました。



(左) レコードプレーヤーのようなおしゃれな地震計「ユーイング式地震計」。130年前に世界で初めてつくられた本格的な地震計のひとつです (右) 津波のメカニズムの実験を行う子供の姿も見られました



地震研スタッフのパーカーにはウナギのモチーフが!



学生実験の様。 (左) 津波伝播実験の様子 (右) 電気工作室の様子

16 アイソトープ総合センター

初参加となったアイソトープ総合センターは、浅野キャンパスにて模擬講義を開催しました。今問題となっている放射線について、高校生向けの分かりやすい解説に来場者は聞き入っていました。



17 分子細胞生物学研究所

高校生のための生命科学シンポジウム「記憶を作る細胞を見る」を開催。会場が溢れるくらいの人で盛り上がりました。



18 農学部

模擬授業や研究室見学などを実施しました。研究室見学では、農学部地下の水槽をめぐる企画や、動物医療センターを訪れるものもあり、高校生たちは興味津々でした。



水圏生物科学専攻の渡邊研究室では、屋外にも色々な魚の水槽がありました。こちらは、うなぎの手づかみに挑戦中



研究室内の魚たち。きれい!



(左)「高度動物医療の現場を見る」附属動物医療センターを見学しました (中)「ミクロの世界をのぞく」(獣医学専攻)。先生のアドバイスのもと高校生が機器を操作! (右) 弥生講堂では農学部の概要説明も

* オープンキャンパス2011のひとこま



1 銀杏並木前の総合受付には開場前にたくさんの高校生が並びました。銀杏の紅葉に見入る姿も。2 コミュニケーションセンターは銀杏並木に出張営業。記念品を求める高校生たち。3 工学部機械工学科のロボット手術システム。実際に操作を体験できました。4 先輩に熱心に質問する姿も(女子学生コース) 5 クリスマスイブに行われたので、ツリーもお目見え。こちらは理学部。6 一般公開していた地震研では子供たちの姿も。7 農学部地下にも屋外にもたくさんの水槽が! 生きたウナギをこんな近くで見られることもあまりないかも! ?



愛知県から夜行バスでやって来た理系6人・文系2人の元気な8人組。みんなバラバラに見に動くけど、「重力波の講義だけは絶対見たい!」は一致。



岡山の私立高校から、80人強でやってきた中のふたり。「工学部の講義が面白かった」とのこと。東大の印象は「すごい広い」。「来たのは初めてで、中央食堂で赤門ラーメンを食べました!」と満足げ。



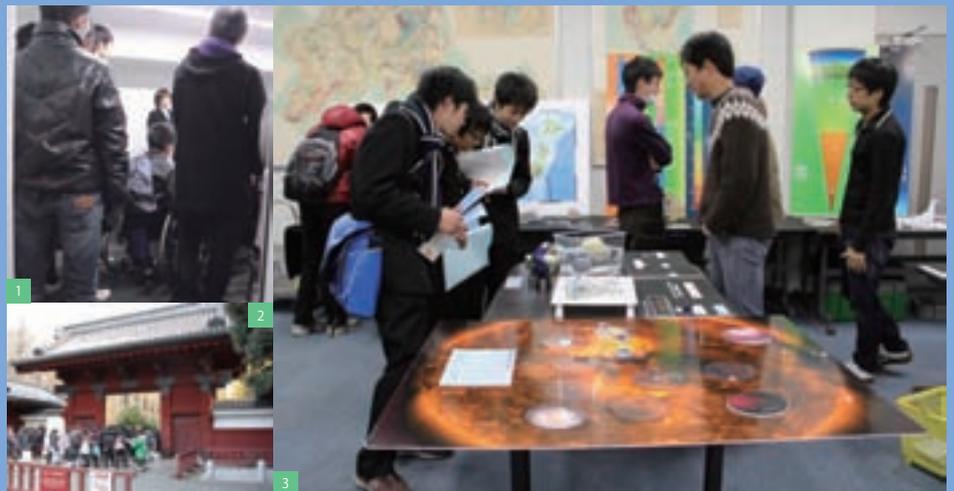
青森からやってきた理系女子ズ。「素粒子みできました!」、「講義が難しくてよくわからなかったー」。東大の印象は「かっこいい。安田講堂とか、銀杏とか。あと、雪がない!」、「雰囲気がかっこよかった。あと質問したら何でも答えてくれる」とのことでした。



山形からやってきた3人。「工学部の燃料電池の話が面白かったです」。東大からは「楽しそう、いろんな人がいる感じ」を受けたとか。



栃木県の日光から来たふたり組。「薬学部、農学部、工学部を見てきました。薬学部の血管についての講義が一番面白かった」、「初めて来たけど、やっぱりすごくいいところ」、「歴史があって面白い。あと食堂のカレーがおいしかったです」。



1 車いすの参加者も。バリアフリー支援室をはじめ、オープンキャンパスを楽しんでもらえるようサポートしました。2 東大といえば赤門! 多くの高校生が記念撮影をしていました。3 理学部地球惑星物理学科と地球惑星環境科の展示に見入る高校生たち。高校生たちに分かりやすく伝えるため、各企画で見せ方を工夫していました



本年のオープンキャンパスは初めての冬の開催、しかも年末に近い時期となりましたが、たくさんの高校生にご来場いただき、無事終了することができました。高校生たちにとって、東京大学の教育・研究のいまを体感し、自分の将来を考えたり、学びの意欲を高める機会になったものと思います。各企画や運営に携わってくださったみなさま、本当にありがとうございました。寒い中お疲れさまでした!

問い合わせ先: 本部広報課 (内線: 82032)



NEWS

一般ニュース



海洋アライアンス

海洋教育促進研究センター(RCME)・日本財団共催
第3回シンポジウム「海は学びの宝庫～海洋教育
の研究と実践～」

海洋アライアンス海洋教育促進研究センター(日本財団)(事務局:理学系研究科)では10月15日(土)に工学部2号館213大教室においてシンポジウム「海は学びの宝庫～海洋教育の研究と実践～」を開催した。

海洋教育促進研究センター(以下、RCME)は2010年10月に新設され、主に理学部と教育学部のメンバーが協力して初等中等教育において海洋教育を普及推進することを目的としている。RCMEでは2011年6月に第1回目のウェブシンポジウム、8月に防災教育に焦点を当てた第2回シンポジウム「海洋教育がひらく防災への道」を開催してきた。今回の第3回シンポジウムでは、全国の海洋教育の実践例を紹介し、教材としての「海」が持つ可能性とそれを広く伝えるにはどうすればよいかを現場の先生方と共に考えることを目的とした。当日は悪天候にもかかわらず100名近くの参加者があり、全国の小中高の学校の先生を含む現場の教育関係者が半数以上を占めた。

講演会は日本財団・海野光行常務理事による開会の挨拶で始まり、三重県鳥羽市の「海の博物館」の平賀大蔵学芸員による基調講演(写真)では子供たちが楽しみながら海を学ぶための様々な試みが紹介された。日本の原風景を思わせる美しい入り江で練り広げられる生きもの観察、船漕ぎ体験、貝紫の染物実習など海洋教育が与える豊かな体験の広がりがとても印象的であった。次いで、浦辺徹郎教授(理学系研究科)よりRCMEの使命と新たな挑戦について説明があり、さらに、福島朋彦特任准教授(海洋アライアンス、RCME)から「小・中・高等学校への出前授業を通じた海洋教育の実践において学校と大学がWin-Winの関係を構築するには何が必要なのか」、河野麻沙美特任講師(RCME)から「知識基盤社会に向かう学校教育において海洋教育がどのような貢献ができるのか」、

窪川かおる特任教授(RCME)から「女子にとって海を学ぶことがどのような社会的意義を持つのか」について、それぞれ講演が行われた。これらを受けて文部科学省・宮崎活志視学官より海洋教育促進の観点から学校教育の現状と課題について問題提起がなされた。さらに、理学系研究科附属臨海実験所、RCMEの連携拠点大学である東北大、お茶の水女子大、横浜国大、岡山大、琉球大の各機関で取り組まれている海洋教育の実践報告が行われた。最後に佐藤学RCMEセンター長(教育学研究科教授)司会、赤坂甲治教授(理学系研究科附属臨海実験所長)指定討論によるパネルディスカッションでは参加者を交えた質疑応答が活発に行われた。さらに会場ロビーでは磯の生きものの生体展示(担当:大森紹仁RCME特任研究員)や海洋数値シミュレーションのデモ(担当:丹羽淑博RCME特任准教授)も行われた。シンポジウムの要旨はセンターHP(<http://rcme.oa.u-tokyo.ac.jp/>)で公開されている。

今後もセンターでは、全国の大学や現場の先生方と連携して海洋教育を促進するとともに、シンポジウムを定期的に開催していく予定である。



当日は活発な意見交換が行われ
海洋教育への関心と期待の高さがうかがわれた



本部留学生・外国人研究者支援課

「東京大学外国人留学生特別奨学制度平成23年度10月期研究奨励費受給者証書授与式」を開催

11月16日(水)16時より、「東京大学外国人留学生特別奨学制度平成23年度10月期研究奨励費受給者証書授与式」が、田中明彦副学長臨席の下、国際センター・日本語教育センター会議室で開催された。

本奨学制度(東京大学フェローシップ)は、「大学院において特に優秀な私費外国人留学生に対し研究奨励費を支給することにより、本学での学術研究への取組を支援するとともに、諸外国からの優秀な留学生の受入促進に資する」ことを目的として、平成16年度から実施されているもので、月額15万円が標準修業年限の最終月まで支給される。

本年度10月期は、博士課程14名、修士課程6名の合

計20名の大学院学生が受給者として決定され、出席した15名の受給者に田中副学長から受給者証書が手渡された。



田中副学長から受給者証書授与の様子

次いで、田中副学長から「受給者の皆さんは、本制度を受給されることを誇りに思い、学業や研究に専念してください。教職員は多いに期待しています」との挨拶があった。引き続き、受給者を代表して大学院工学系研究科博士課程の辛殷美(シン・ウンミ)さん(韓国)から、「東京大学フェロシップに採用いただきありがとうございます。これからは東大フェローの支援のもと、良い研究成果を出すため精一杯がんばります」と感謝の意を表すスピーチがあった。



平成23年度10月期研究奨励費受給者と関係者

<問い合わせ先>

国際部 留学生・外国人研究者支援課生活支援チーム
内線22515



小石川植物園フェンス・デザインコンペティション表彰式が11月25日(金)13時30分から理学部1号館の小柴ホールホワイエで開催された。

本コンペティションは、「地域に開かれた植物園のフェンス」をテーマとし、東京大学がまちづくりに貢献するため、地域参加型のまちづくりの一環としてこの事業を位置づけ、新たな歩行者空間を構成する重要な要素となるフェンスについて、広くデザインを募ったものである。応募期間が短く、十分な告知もできなかったにもかかわらず、最終的には応募総数150点、国内外から実にたくさんの魅力的な提案が集まった。コンペティションの審査会では学内の委員に加え学外の建築家や地域住民の代表者の方々にご参加頂き、活発な意見交換が行われた。その中で多くの審査員の評価を獲得し、最優秀賞に選ばれたのが、通風と視線の透過を意図した葉脈状のパンチングによるデザインのフェンスである。これに加え、フェンスを壁に見立てて窓をモチーフにしたもの、新旧の様々な素材を利用して格子状にしたもの、歩行者の移動に伴い視覚的な変化を図るもの、また時間を経て、地域住民の参加や植物の成長に伴って完成形に近づくものが優秀賞として選ばれた。

最優秀賞の作品は歴史ある小石川植物園のフェンスとして、実際に整備される予定である。

最優秀賞 1点

・美濃部幸郎(美濃部幸郎アトリエ)

優秀賞 4点(五十音順)

・池田雪絵+大野俊治(池田雪絵建築設計事務所)

・今井裕平+河野輝充+野村恒司+林雄三+箕浦浩樹(kenma)+松尾和典(慶應義塾大学SFC研究所)

・佐藤光彦+内山晃一+渋谷舞+小笠原隼+丹下幸太+塚越望+藤本陽介

(日本大学理工学部建築学科 佐藤光彦研究室)

・高橋志保彦+幸地俊一(高橋建築都市デザイン事務所)+古竹大志(atelier +D)

学外から参加して頂いた審査員(五十音順)

・宇野 求(建築家/東京理科大学 教授)

・栗生 明(建築家/千葉大学 教授)

・島川 健治(白山御殿町睦会 地元町内会)

・高畑 崇久(文京区 土木部長)

・横田 滋(東御殿町会 地元町内会)



入賞者との記念撮影



最優秀賞受賞者の美濃部幸郎氏

一般 本部留学生・外国人研究者支援課
 平成23年度第2回「外国人留学生支援基金奨学生証書授与式」開催される

教職員ならびに卒業生の方々からの寄附金で運用されている「外国人留学生支援基金」は、平成23年度第2回奨学生（奨学金月額5万円／支給期間：平成23年10月～平成24年3月）として10名の留学生を採用し、11月30日（水）に奨学生証書授与式を開催した。



謝辞を述べる宋賢珍さん

式では、田中明彦副学長（留学生支援基金運営委員会委員長）から奨学生に証書が授与され、「本奨学金は教職員、卒業生の方々からの寄附金から支給されるものである。優秀な留学生の皆さんには、研究・勉学の成果を期待している」との挨拶があった後、奨学生を代表して大学院農学生命科学研究科博士課程の宋賢珍さん（韓国）から、「多くの方に支援されて勉学に打ち込める環境を整えて頂いたことを心から感謝いたします。そして、この大切な支援基金奨学金を大事に使って、より勉強と研究に精励して、研究成果で貴基金の恩恵に報いるつもりです」との謝辞が述べられた。

なお、本奨学金受給者は、前身の外国人留学生後援会から通算して今回で360名となった。ここに本基金の趣旨にご賛同いただいている皆様のご支援に対し、改めて御礼申し上げる次第である。



東京大学外国人留学生支援基金
 平成23年度第2回奨学生一同

一般 本部学務課
 平成23年度教育実習・介護等体験報告会及び懇談会を開催

12月1日（木）16時30分から法文2号館教員談話室において、教育運営委員会教職課程・学芸員等部会の主催で、教育実習・介護等体験報告会が開催された。

その後、18時から山上会館に場所を移して教育実習・介護等体験懇談会が、大学院教育学研究科・教育学部が取りまとめ部局となり開催された。また、今年度も報告会と懇談会とをジョイントさせる形で行われた。

教育実習・介護等体験報告会では、今年度の教育実習や介護等体験に参加した学部及び大学院の17名の学生から報告が行われた。学生達からは、「実際に教壇に立ち生徒に理解させることの大変さがわかった」、「なぜ介護等体験をするのか疑問だったが、体験活動を通じて人への気遣いや配慮の大切さを知った」等、教職に結びつく深い実感やエピソードが自分の言葉で誠実に語られた。学生の報告を聞きながら聴き入る教職員の姿が印象的であり、最後は今井康雄教育学部附属中等教育学校長から

の、「教育実習や介護等体験を通じてプロの世界に触れたということでもあり、この貴重な経験は今後の進路等において必ず役立つはずである」との講評コメントをもって和やかに終了となった。



教育実習や介護等体験について報告する学生達

この後、山上会館で開催された教育実習・介護等体験懇談会は、市川伸一教育学部長の御礼と開会の挨拶に続き、佐藤慎一理事（副学長）による挨拶と乾杯の発声で開会した。武藤芳照理事（副学長）をはじめ、本部役員や関係教職員、学生、教育実習全般に協力した教育学部附属中等教育学校の教諭陣や、介護等体験でお世話になった社会福祉施設の関係者にもご出席いただき、60名を超える出席者となった。



御礼と開会の挨拶を述べる市川伸一教育学部長



大学を代表して挨拶を述べる佐藤慎一理事（副学長）

しばらくの懇談後、教育学部附属中等教育学校を代表して細矢和博教諭から、教育実習生を受け入れた感想等が述べられ、続いて、東京都立文京盲学校の原田博子先生と、東大和市ふれあいデイセンターひかり苑の橋本孝子先生からは、東大生に対する感想や期待の言葉とともに、本学への貴重なご意見もいただいた。懇談会は、終始和やかな雰囲気で行進中、昨年よりも学生の出席者が増えたこともあり、お世話になった関係者への御礼やこれからの抱負を熱心に述べる学生の姿が印象深かった。

最後に、例年最も多くの学生が教育実習や介護等体験に参加している文学部を代表し、中地義和文学部長からの締め括りのコメントがあり、盛況のうちに閉会した。

海洋アライアンス

中学生を対象にしたミニ講義を行う

一般

12月6日（火）、山口県の慶進中学校・高等学校（加治英雄校長）の中学生71名の本郷キャンパス訪問があり、事前に連絡を受けていた海洋アライアンス（機構長 浦環生産技術研究所教授）はキャンパスツアーやミニ講義、パネルディスカッションなどで歓迎した。

中学生の受け入れを担当したのは、海洋アライアンスの福島朋彦特任准教授と窪川かおる海洋教育促進研究センター特任教授だったが、当日は慶進中学校・高等学校の卒業生である理学部2年の河杉翔伍君と文学部2年の小賀野乃花さんが駆けつけてくれた。

修学旅行のバスが赤門に到着すると、早速、河杉君と小賀さんによるミニキャンパスツアーが始まり、生徒達は銀杏並木、安田講堂、三四郎池、そして小柴博士のノーベル賞メダルが飾られている理学部1号館などに案内された。

続いて旧理学部1号館（150号室）に移動してミニ講義が行われた。生徒たちが独特の雰囲気をもつ大学の講義室を見て目を輝かせていたのが印象的だった。

最初に講師を務めたのは福島特任准教授である。講義の最初に同郷の先輩にあたる 故 玉木賢策教授（工学研究科 山口県宇部市出身）の偉業と、名前を冠した海底地形名「玉木海山」が登録された事を紹介すると、会場から驚きの声があがった。

続いて登壇した窪川特任教授は、研究者になるまでの道のり、海洋科学と研究航海、最後に海洋生物の研究の話をした。生徒達は、どのようにして研究者になったのか興味深く話を聴いている様子だった。



窪川特任教授によるミニ講義風景

次に、福島特任准教授が司会を務め、窪川特任教授、河杉君、小賀さんの4人によるパネルディスカッションが行われた。

大学入学を最終目的にするのではなく、大学卒業後についても考えてみて欲しいと語りかけると、生徒達は自ら手を挙げて、「海洋学者になりたい」、「外国人のための日本語教師になりたい」など自分の夢を発表してくれた。

最初は緊張気味の河杉君と小賀さんだったが、次第に舌も滑らかになり、最後は彼らによるエールで締めくくられた。「常に将来の夢を持っていなくてもいい。そんな時代があってもいいじゃないか。日々を楽しむことも大切にしてほしい」と。

先輩からのエールは、数年後に受験を控えている中学生の一服の清涼剤になったものと思う。

海洋アライアンスは、今後も海の知識を広めるために様々な普及活動に取り組む予定です。

海洋アライアンスホームページ：

<http://www.oa.u-tokyo.ac.jp>

本部総務課
2011年度業務改革総長賞表彰式の開催

12月16日（金）、安田講堂において、2011年度業務改革総長賞表彰式が業務改革推進室の主催で開催された。

業務改革推進室では今年度も業務改革の募集を行い、44件の応募があった。表彰式では、応募課題の中から厳正な審査の結果選出された総長賞（副賞：海外研修）1件、（副賞：国内研修）2件、理事賞3件、特別賞2件に対し、濱田純一総長及び久保公人理事（当時）から表彰状並びに副賞が授与された。



総長から表彰状を受け取る受賞者

○総長賞（海外研修）

「共同研究契約業務のシステム化」

共同研究契約業務のシステム化プロジェクト（代表者：峯崎 裕）

○総長賞（国内研修）

「緊急時における学生及び教職員の安否確認システム（駒場アラート）の導入」

駒場アラート開発チーム（代表者：山岸 正）

○総長賞（国内研修）

「中とじプリントによる情報入出力運用支援サービスの活用」

複合機活用検討WG（代表者：府川 智行）

○理事賞（自己研鑽費用補助）

「留学生受入業務支援システム（T-cens）」

留学生受入業務支援システム作成委員会（代表者：前川 宏一）

○理事賞（自己研鑽費用補助）

「学外セキュアファイルサーバの活用による会議資料配布の効率化」

新領域創成科学研究科（代表者：藤枝 俊輔）

○理事賞（自己研鑽費用補助）

「各種補助金の部局別仮想口座開設による入金確認の効率化」

研究推進部外部資金課（代表者：根本 義久）

○特別賞（コミュニケーションセンター商品）

「「すぐに役立つ人材」育成へ『総合案内マニュアル』抜本的リニューアル～業務の軽減と平準化～」

医学部附属病院医事課医事企画チーム（代表：志茂 弘明）

○特別賞（コミュニケーションセンター商品）

「工作技術講習会の実施」

工学系研究科技術部工作技術講習会実行委員会（代表：杉田 洋一）

表彰に引き続き、濱田総長から、今後も変化し続ける業務を日常的に支えるため安定さと正確さをもって、柔軟かつ挑戦的に業務改革をすすめて欲しい旨、教職員へのメッセージがあった。

続いて、受賞者による取組課題プレゼンテーションが行われた。業務改善の着眼点や実際の課題解決の経過、意気込みや熱意が伝わってきた。プレゼンテーションの取り組みにも例年進歩が見られて、研修の一環としての成果が現れてきている。

※以下URLにて、プレゼンテーション資料をご覧くださいいただけます。

<http://www.ut-portal.u-tokyo.ac.jp/wiki/index.php/業務改革総長賞受賞課題の一覧>

（東大ポータル>便利帳>総務部>総務課>業務改革総長賞受賞課題の一覧）

最後に業務改革担当の久保理事から講評があり、式を締めくくった。当日は約400名の教職員が参加し、表彰式をともに祝った。



受賞者一同。総長を囲んで記念撮影

高齢社会総合研究機構
へいた
釜石市平田運動公園の「仮設のまち」
が完成
一般

高齢社会総合研究機構がコンセプト提案した「コミュニティケア型仮設住宅」は遠野市と釜石市に建設がなされたが、釜石市平田運動公園に店舗がこのほど完成し、12月23日（金・祝）にオープニングのセレモニーが開催された。7月の遠野の入居以来、8月の釜石の入居、サポートセンター完成、9月の遠野のサポートセンター完成などを経て、少々時間が経過したが、12月の本店舗完成で「仮設のまち」の建設プロジェクトは一段落となる。



ウッドデッキを備えた住居

この釜石・平田の仮設は、仮設住宅（一般ゾーン、ケアゾーン、子育てゾーンあわせて278戸）の他、訪問看護やデイサービス、診療所機能を有したサポートセンター、子育て支援機能、スーパー・店舗・バスの待合施設などを一体的に整備した、総合的な仮設まちづくりとなっており、それらはウッドデッキでバリアフリーに接続されていて、仮設住宅のモデル的な位置づけとなっている。

オープニングには、野田武則釜石市長、野村秀貴中小企業基盤整備機構理事、中村一郎岩手県沿岸広域振興局長、狩野徹岩手県立大教授、鎌田実高齢社会総合研究機構長らが出席し、挨拶の後、テープカットがなされた。



来賓・関係者らによるテープカット

建物・施設整備は完了したが、自治会の立ち上げ、まちづくり協議会の組織化などへ大学として支援を継続しており、最近では血圧の遠隔診断も開始し、住民の方々が安心して安定した生活ができるよう活動している。

高齢社会総合研究機構では、大槌町も含めた仮設住宅での住環境改善への取り組みを行っている他、復興公営住宅建設に向けてのプラン提案も準備中であり、岩手県の被災地支援を継続していく。



仮設住宅の中央部(右半分がケアゾーンの住戸、左側が店舗と事務所。中央に駐車場とバスロータリーが整備される)

ニュースページ、 インフォメーションページ への記事提出要領

「学内広報」は皆さんから送っていただく記事で作られています。下記の提出要領により、積極的に学内の情報をお寄せください。

1. 提出方法

記事は、各部署の広報担当者を通して、メールの添付ファイルとしてデータで送付すること。

2. 締切日

本学HPの左下にある「学内広報アイコン」をクリックして発行スケジュールをご確認ください。

3. 提出の際の留意事項

(1) 文字数

文字数は記事1件につき800字を目安とし、内容により増減は可とする。

(2) 写真

- ① 写真を掲載する場合はキャプション（説明文）を25文字以内で添えること。
- ② 写真を電子データで提出する場合、Wordファイルなどに貼り付けず、jpeg等の形式による元の画像ファイルを送付すること。
- ③ 写真は電子データがない場合、プリントのものも掲載可とする。

(3) 書式

- ① 原稿は1行25文字の書式で作成すること（ただし、大きな図表などが含まれる場合は、この限りではない）。
- ② 原稿のはじめに担当部署名と記事タイトルを記載すること。
- ③ 記事タイトルは極力簡潔でわかりやすいものとする。

(4) 文章表現のきまり

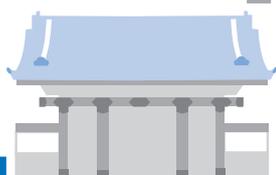
- ① 句読点は「、」「。」を用いること（「,」「,」は用いない）。
- ② 時間は24時間表記とし、日付には括弧書きで曜日をつけること。
- ③ 記事内の人名は極力フルネームで表記。
- ④ この他、特に表記する必要のない「平成●年」は削除する、特に支障がない限り「東京大学」は「本学」とする等、表記統一のための修正を編集段階で行う。

※編集スケジュールの都合上、原則として校正はできません。基本的にはいただいた原稿がそのまま掲載されますので、内容に間違いのないよう、十分ご注意ください。

4. 問い合わせ先・提出先

本部広報課 広報企画チーム
TEL：03-3811-3393 内線22031
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

部局 ニュース



史料編纂所

史料編纂所社会連携研究部門公開シンポジウム「図書館所蔵史料のデジタル化公開方式」開催

史料編纂所では、2010年より3年間の予定で社会連携研究部門を設置している。この部門では、産学連携組織としてプロジェクト参加企業（大日本印刷（株）・（株）図書館流通センター・丸善（株）・（株）雄松堂書店・（株）コンテンツ）との共同研究として、公共図書館などに所蔵されている歴史資料（史料および編纂刊行物）のデジタル化による活用システムについて研究を行っている。また、石川県立図書館とも協定を結び、館所蔵史料の目録・画像データ作成について協力を得ている。

10月14日（金）午後、山上会館大会議室にて、この研究プロジェクトの成果報告となる公開シンポジウム「図書館所蔵史料のデジタル化公開方式」が開催された。参加者は、大学・研究機関の他、公立図書館・公文書館・博物館、IT関連企業など各分野から127名にのぼった。

シンポジウムは、史料編纂所榎原雅治所長の挨拶をもって開会した。続いて、部門を主宰する石川徹也特任教授（情報学）より、研究の目的と成果に関する基調報告が行われ、本部門が開発した「自治体史テキスト検索および編纂史料閲覧システム（以下「ADEAC」と略）の概要が紹介された。また、大日本印刷株式会社の伊藤直之氏により、ADEAC（β版）の実演が行われ、今回の研究素材である『石川県史』電子版の検索機能や、典拠となった古文書との参照関係などの機能について説明を行った。休憩後、各専門分野に関する個別報告を行った。梅田千尋特任教授は、歴史学の立場から、史料の電子化におけるメタデータ作成の設計について報告し、（株）コンテンツの石間衛氏は史料のデジタル撮影と画像処理上の課題について論点を提示した。また、石川県立図書館の鷺澤淑子専門調査員は、図書館における効果や今後の期待について述べた。最後に、参加企業を代表して大日本印刷株式会社西村達也常務役員から、出版文化事業とITの活用について展望が語られた。

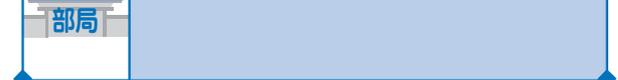
いずれの報告に対しても、図書館などの実務を踏まえた積極的な発言が寄せられ、活発な質疑が交わされた。社会連携研究部門では、引き続きADEACの実用化・商用化に取り組む予定である。



ADEACについて説明する石川徹也特任教授

大学院薬学系研究科・薬学部

全学教職員懇話会開催



全学教職員懇話会は教職員が一堂に会して、個人の立場で一つのテーマについて話し合う場として、第1回が平成22年12月9日（木）に開催された。今回の第2回は10月27日（木）18時から薬学系研究科総合研究棟2階講堂において、「東大の秋季入学・卒業を考える」をテーマに薬学系研究科の主管により開催された。

濱田純一総長の挨拶の後、一條秀憲薬学系研究科教授、堀井秀之工学系研究科教授、永田敬総合文化研究科教授の話題提供に引き続き、教職員による活発な討議が行われた。出席者は約130名であった。また、懇話会終了後、20時より薬学系研究科総合研究棟10階大会議室において、和やかに懇親会が行われた。



話題提供者による説明



出席者からの活発な質問

生産技術研究所

秋の風物詩、千葉実験所公開が開催される

部局

11月11日（金）に生産技術研究所の附属施設であり、生研発祥の地でもある千葉実験所（所長：須田義大教授）において、毎年恒例の公開行事が開催された。千葉実験所では、耐震実験設備や水槽施設を用いた大型実験研究や屋外観測、交通工学・車両工学、構造工学など広い敷地を必要とする研究、バイオ工学、加工成形等の実用化試験などが実施されている。今年の千葉実験所公開も大規模実験施設を中心とした26研究室・研究センターによる研究テーマの一般公開とデモンストレーション、および特別企画が行われた。当日は雨天で気温も低く、来場者の出足が懸念されたが、結果的に600名近くの来場者をお迎えし、盛況に開催することができた。

今年の特別企画は、岸研究室による「ひび割れ自己治癒コンクリートの開発と今後の展望」であり、鉄道・運輸機構（JRTT）、JR東日本、住友大阪セメントからの来賓をはじめとして、多数の参加があった。岸利治教授による特別講演は来場者の関心も高く、座席が埋まり立ち見が出るほどの盛況であった。その後の屋外での記念式典、テープカット、および見学会にも、雨が激しさを増す中、傘を片手に多くの方々に御参加いただいた。



記念式典におけるテープカット

千葉実験所公開では、毎年近隣の児童や生徒を対象とした見学会も行っている。今年も弥生小学校、轟町小学校、および千葉県立柏高校の皆さんをお迎えし、所内の

見学とデモンストレーションの体験をしていただいた。大型水槽を使用した水中ロボットの実演や、次世代交通システム・エコライド体験など、多岐の専門分野にわたる盛り沢山の見学会であった。また、地震被害・耐震関係の研究紹介では東日本大震災に関するパネルが展示され、多くの来場者の関心を引いていた。

本年度の千葉実験所公開に参加した各研究室の研究紹介（千葉実験所公開 ポスターギャラリー2011）は、生産技術研究所のwebから閲覧可能である。

（生研web：<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/index.html>）



エコライドに興味津津の小学生たち



振動台実験のデモンストレーション

生物生産工学研究センター

2011年度国際シンポジウム開催される

部局

11月15日（火）、弥生講堂において生物生産工学研究センター国際シンポジウムが「国立大学フェスタ2011」の一環として開催された。本センターは、植物・微生物バイオテクノロジー研究を強みに推進し、その成果を環境保全型食糧生産、省エネルギー有用物質生産、環境修復等に应用することを目的としている。今回のテーマは「植物バイオテクノロジーの将来展望（Future

Prospects of Plant Biotechnology)」と設定し、以下の12名の演者による講演が行われた。

シンポジウムの前半は、植物免疫や抗菌性二次代謝産物生産に関する発表が行われた。英国John Innes Center (JIC) のAnne Osbourn教授は、植物のトリテルペノイド生合成遺伝子クラスターのゲノムマイニングとそれらを用いた代謝工学に関する最新の知見を紹介した。明治大学の渋谷直人教授はイネのキチンエリシター受容体の単離・機能解析、農業生物資源研究所 (NIAS) の西澤洋子氏はキチンエリシター受容体の改変によるイネの病害抵抗性増強技術開発について発表した。また、NIASの高辻博志氏は、イネの植物免疫を制御する鍵転写因子の発現制御による病害抵抗性増強技術開発、本センターの岡田憲典助教は、イネのジテルペン型抗菌性物質合成のマスター転写因子の機能とその標的遺伝子の同定について発表した。大塚化学の梅津憲治氏は、企業の立場から、病害抵抗性誘導型農薬開発の現状と将来展望について発表した。

シンポジウムの後半では、まずミシガン大学のKirakosyan准教授から、天然薬理成分やワクチン等の生産を目指したバイオテクノロジー研究の現状と将来展望について発表があり、次いでJICのKeith Saunders氏が植物ウイルスベクターを用いたタンパク質発現系に関する発表を行った。また、京都大学の佐藤文彦教授は、植物細胞を用いたインドールアルカロイド生産、NIASの高岩文雄氏は、経口ワクチン米の開発、本センターの倉橋みどり特任研究員が微細藻類を用いたバイオ燃料生産に関する研究について発表した。最後に明治大学の矢野健太郎准教授が植物科学推進するうえでバイオインフォマティクスを有効利用することの重要性について発表を行った。いずれの発表も、世界の第一線で活躍している研究者によるものであり、植物免疫や植物を用いた有用物質生産などに関する最新のデータが紹介された。参加者は約150名で、きわめて活発な質疑応答が行われ、盛況のうちにシンポジウムは終了した。現在、本センターは将来計画を作成しつつあるが、発表された内容は、いずれも本センターの将来構想を考える上で有用なヒントを与えるものと考えられる。



シンポジウムの様子

大学院人文社会系研究科・文学部
外国人留学生見学旅行を実施
部局

11月18日(金)・19日(土)の両日、恒例の外国人留学生見学旅行を、サポート東北(福島)を念頭に実施した。

参加者は、留学生30人、引率教職員10人の合計40人。8時過ぎに、医学部2号館前広場から貸切バスで出発。東北自動車道を利用し、3時間半程で福島県猪苗代湖に到着。前日の天気予報に反して天候に恵まれた初日は、まず昼食をすませ、湖畔を散策した後、最初の見学施設である野口英世記念館を訪れた。次に平安時代初期の東北地方における仏教の拠点であった慧日寺資料館を訪れ、名残りの紅葉の中、発掘調査に携わっている研究員の方の案内により、復元された金堂等を見学した。続いて訪れた喜多方市の新宮熊野神社では、色づいた公孫樹(イチョウ)の大木の下、有名な長床を見学。夕闇迫るなか市内に移動し、初日最後、蔵の街ならではの酒蔵の施設見学では、引率者が驚く程の日本酒の購入があり復興に貢献することとなった。17時40分頃宿泊地である熱塩温泉のホテルに到着。各自温泉に浸かり疲れを癒した後、夕食を兼ねた懇親会となり、和やかな雰囲気の中、参加者相互の親睦を深め楽しいひと時を過ごした。

2日目、8時半過ぎ、福島県立博物館へ向け出発。県立博物館では、解説員の説明を受けながら見学した。その後、そば降る雨の中、次の目的地である紅葉の残る御薬園を訪れ、続いて屋根瓦を葺き替えた会津若松城(鶴ヶ城)を見学した後、昼食をとった。最後の見学場所である重要伝統的建造物群保存地区となっている大内宿では、往時の宿場の繁栄を想像しつつ各自散策し、15時半頃本学への帰路についた。バスは予定時刻より若干遅れ19時50分頃本郷構内に到着。こうして今年の見学旅行は、東北地方の復興、歴史と文化、美しい自然を実感しながら、参加者に留学生同士の触れ合いなどの多くの思い出を残し無事終了した。



慧日寺復元金堂で説明を聞く留学生



新宮熊野神社長床前で公孫樹を眺める留学生



福島県立博物館前での全員集合写真

大学院教育学研究科・教育学部

世界授業研究学会、教育学部附属中等教育学校にスクールビジット

部局

11月26日（土）から開催された世界授業研究学会の最終日の28日（月）、スクールビジットとして、本学教育学部附属中等教育学校（今井康雄校長）に、韓国、シンガポール、インドネシア、スウェーデンなど世界各国から143名の教育研究者が訪問した。

まず、同校が国立大学の附属学校として教育実践研究を行うことを目的としており、エリートの育成をめざしていないこと、教育に関する遺伝と環境の問題に取り組むために双生児募集枠がある世界に類を見ない『ふたごの学校』であることなどの学校の概要と、近年研究課題として取り組んでいる協働学習への取り組みとそれに伴う授業検討会についての説明を行った。

その後、五つのグループに分かれ、グループ毎に同校教員の案内と同時通訳が付き、三校時、四校時の授業を見学した。同校は六年一貫教育を行う中等教育学校であるので、一年生（中学一年に相当）から六年生（高校三年に相当）までの年齢の幅が広い生徒が在籍しており、参加者はこれらの生徒たちを対象とした多くの種類の授業を見学することができた。また、スクールビジット参加者への資料としてすべての授業の概要を英文で用意し、参加者からは好評であった。多くの参加者が、教員

と生徒の間の穏やかな様子から受ける信頼関係に感心するとともに、生徒たちが楽しそうに授業を受けている様子にも関心を示していた。

午後には同校教員とのディスカッションと教育学研究科教員による授業研究の講演が行われた。見学した授業に関する意見や質問、授業研究に関しての工夫や教員研修に関する課題などについての質問など、授業研究に関しての活発な質疑応答が行われた。

日本の学校ではごく普通のことである、校内に入るときに履物を脱ぎスリッパに履き替えることが参加者には不思議なようで、その上、スリッパで歩くのに苦勞もしていた。また、同校では前期課程（中学校に相当）の生徒は制服着用となっており、後期課程（高等学校に相当）の生徒には制服はなく自由服での通学となっている。このような体制は日本でも珍しいが、同じ学校の中に制服を着た生徒と自由服の生徒が混在している様子も珍しいようであった。さらに、日本の教科書や資料集の充実した内容や綺麗な写真やイラストなどに興味を示すなど、国や文化の違いをさまざまなお互いを感じあうことができたスクールビジットとなった。



普通教室での授業見学の様子



世界各国からの来訪者（全体会場）

大学院経済学研究科・経済学部では11月26日（土）・27日（日）の2日間、山梨方面への留学生見学旅行を実施した。参加者は留学生33名（学部生5名、修士24名、交換留学生4名）及び引率の教職員4名の計37名であった。

当日は予定通り8時30分に大型バスで本郷キャンパスを出発。天気は見事な快晴で、高速道路上からもきれいな富士山を見ることができた。河口湖周辺で昼食を済ませた後、富士山に向かう。凍結のため、四合目までしか行けなかったが、雲が広がる壮大な景色に留学生一同大喜びだった。また、鳴沢氷穴では、かがまないと通れないような狭い穴の中を一列に並んで歩いたが、自然による産物ということに驚きの声があがった。河口湖周辺散策の後、宿泊先の石和温泉のホテルに到着した。

夕食前に温泉に入った留学生が多く、宴会場での夕食には大半が浴衣姿で現れる。多くの留学生にとっては初めての体験だったようだ。一人一人のお膳による夕食、次から次に運ばれてくる手の込んだ料理の数々に歓声があがる。

夕食後に松井彰彦教授主催による『経済学実験』を行う。景品付きということもあって、留学生たちは興奮しながら実験に真剣に取り組んだ。結果発表では、もらった景品を手に顔がほころんだ。その後、話し足りない人たちは、深夜まで教授・スタッフを囲んで親睦を深めていた。夜中に何度も温泉風呂に入る者もあり、留学生たちは日本の温泉を満喫していた。

翌日は、昇仙峡に向かい、そば打ちを体験した。3、4人の班に分かれてそばを打つ。そば打ちは意外に力が必要な作業で、みんなフーフー言いながら取り組んでいたが、餃子を作った経験のある留学生は、そば打ちも上手で、「手つきが違うね!」とみんなに称賛されていた。自分たちで打ったそばをお昼に食し、その後、シャトー酒折ワイナリーへと移動。同ワイナリーでは工場を見学し、試飲を楽しみ、お土産を買いこんでいた。帰りは事故渋滞に巻き込まれ、東京到着は大幅に遅れたが、初めての1泊2日旅行は無事に終了した。

帰りの車内で実施したアンケートによると、多くの留学生は、このイベントを通して、学年・専攻の違う友人ができ、また初めて温泉に入れて楽しかったとのことであった。



河口湖畔にて



そば打ち体験



信玄公 (!?) と記念撮影

12月1日（木）14時より農学生命科学研究科フードサイエンス棟中島董一郎記念ホールにて、大学院工学系研究科 総合研究機構 イノベーション政策研究センター・技術経営戦略学専攻（TMI）主催のもと、TMIシンポジウム2011「日本のエネルギー戦略を考える」が行われた。

アジアにおけるエネルギー需要の急増、資源制約と原油価格の高騰、自然エネルギーに関する研究開発の進展等の構造変化と福島における原発事故を受け、日本のエネルギー戦略は今、大きな見直しを迫られている。こうした中、「エネルギー戦略を考える」を主題として、学内外の研究者・専門家による講演他、パネル討論、参加者との質疑応答と4時間にわたる充実のシンポジウムとなった。



北森武彦工学系研究科長の開会挨拶

当日は、技術経営戦略学専攻が社会と連携していくことの重要性および今回のセミナーの趣旨を説明する北森武彦工学系研究科長の開会挨拶から始まり、田中伸男氏（前IEA事務局長、日本エネルギー経済研究所 特別顧問）がアジアを中心とした新興国のエネルギー需要予測等、世界のエネルギー動向に関して、World Energy Outlook 2011の結果を踏まえながら講演を行った。

また、本学からは縄田和満教授（技術経営戦略学専攻長）がTMI専攻の各研究室がエネルギー戦略に関して行っている研究成果を、茂木源人技術経営戦略学専攻准教授が世界中におけるエネルギーシナリオおよび再生可能エネルギーの状況に関して、エネルギー源に着目した講演を行った。

講演後のパネル討論では、学外より朝日弘氏（資源エネルギー庁審議官）と木村繁氏（日本エネルギー経済研究所研究理事）を迎え、本学より芳川恒志公共政策大学院特任教授・阿部力也工学系研究科特任教授・梶川裕矢イノベーション政策研究センター特任講師に加えてモデレーターとして坂田一郎政策ビジョン研究センター教授の計6名で活発なディスカッションとなった。

朝日審議官より資源エネルギー庁のこれからの戦略と課題に関して、木村理事よりエネルギー・環境問題をめぐるアジア地域の動向に関して、芳川教授より世界のエネルギー戦略に関して、阿部教授からデジタルグリッドに関して、梶川講師からエネルギー戦略立案のための知的基盤構築に向けた取り組みに関して、とそれぞれの専門分野の解説も行われた。

さらに大学等で行っているエネルギー戦略に関する研究をどのように現実の戦略策定に生かしていくのかについての意見交換、参加者とパネリストの間でのデジタルグリッドを中心とした政策の実施計画および詳細に関して活発な質疑応答がなされた。

シンポジウム閉会に際しては、元橋一之イノベーション政策研究センター長から、イノベーション政策研究センターやTMIの研究目的および社会的貢献に関して説明があり、今後も研究を通してますますの貢献をしていくとの言葉で締めくくられた。



元橋一之イノベーション政策研究センター長の閉会挨拶

本学には、今後のエネルギー戦略の立案に対して、先端的なエネルギー技術、技術経営、経済分析、政策研究等の切り口から知的貢献を行いうる研究者が多数在籍しており、こうした研究者が専門や所属の壁を超えて一堂に会して討議や知識・情報の交換を行う場となった。

《参照URL》

<http://ipr-ctr.t.u-tokyo.ac.jp/jp/events/symposium2011.html>

また、本件についてのお問合せは、下記までお願いいたします。

【イノベーション政策研究センター】

<http://ipr-ctr.t.u-tokyo.ac.jp/jp/etc/inquiry.html>

大学院工学系研究科・工学部

光量子科学研究センター・レーザーアライアンス 合同シンポジウム/第13回 先端光量子科学アライアンスセミナーが開催される

12月5日（月）に工学部11号館講堂にて、大学院工学系研究科附属光量子科学研究センター（PSC）および総合研究機構ナノ工学研究センター内のレーザーアライアンスによる合同シンポジウム、そして光量子科学研究センターが進めている文部科学省「最先端の光の創成を目指したネットワーク研究拠点プログラム（光拠点プログラム）」による事業「光量子科学アライアンス（APSA）」の主催によるセミナーが開催され、学内外および企業より多数の参加があった。

今回のシンポジウム・セミナーの主題は「量子情報」であり、量子力学の基本原則を巧みに利用した情報処理技術、セキュア情報通信技術などで近年、急速に発展している研究分野である。

五神真教授（PSC センター長）の開式の辞、北森武彦教授（工学系研究科長）の挨拶に引き続き、前半はAPSAセミナーとして古澤明教授（工学系研究科物理学専攻）と小芦雅斗教授（光量子科学研究センター）により、量子情報の基礎的な概念、および実験と理論の現状について学生向けのレビューを含めた講演が行われた。後半のシンポジウムでは、中村泰信氏（日本電気（株）グリーンイノベーション研究所）による超伝導回路とマイクロ波を利用した量子光学に関する最新の実験結果の紹介、伊藤公平教授（慶應義塾大学 理工学部物理情報工学科）による同位体制御されたシリコン結晶を用いた量子情報処理技術の開発に関する招待講演が行われ、活発な議論が行われた。



シンポジウムにて挨拶する北森工学系研究科長



講演者4名：（左上）古澤教授（右上）小芦教授
（左下）中村氏（右下）伊藤教授

医科学研究所

医科学研究所附属病院でクリスマス・コンサート開かれる

12月7日（水）16時30分から、医科学研究所附属病院において恒例のクリスマス・コンサートが開催された。今年も、東大白金キャンパスの隣にある聖心女子学院中等科有志の皆さん約50人がボランティアで来てくださり、楽しい催し物をご披露くださった。

まず、前半は「アベマリア」の合唱で始まり、オーケストラ部による「愛の挨拶」、ダンス部によるポップミュージックに合わせた元気なダンス、手話サークルによる手話を交えての「やさしさにつつまれたなら」の合唱と続いた。そして、生徒さんと先生によるフラメンコ「Sevillanas」が披露され、会場はいちだんと盛り上りをみせた。後半は、再びオーケストラ部によるクリスマスソングのメドレーや、サンタの衣装に身を包んだ生徒さんによる可愛いダンス、クリスマスにちなんだ「O Holy Night」の合唱と続き、和やかな雰囲気にも包まれた。最後に、会場の参加者も一緒に「もろびとこぞりて」と「きよこの夜」を合唱して、コンサートは終了となった。中等部、高等部の皆さんが、一生懸命練習し、入院している患者さんやそのご家族に、安らぎと元気をプレゼントしようという温かい気持ちのあふれた催し物であった。退場される聖心女子学院の皆さんへの感謝の拍手が、会場に鳴り響いた。



フラメンコ部員と先生による「Sevillanas」



オーケストラ部の演奏に合わせ、クリスマスソングメドレー



参加者と一緒に「きよしこの夜」の合唱

大学院農学生命科学研究科・農学部
動物慰霊祭開催される

部局

12月9日（金）11時から弥生キャンパス内動物慰霊碑前において第93回動物慰霊祭が行われた。西原眞杉獣医学専攻長からの「愛情をもって動物に接していただきたい」との挨拶、佐々木伸雄附属動物医療センター長からの動物慰霊碑設置の経緯に触れた挨拶の後、多くの参列者が教育・研究に供され生命科学の発展に大きく寄与した動物の御霊に思いを致し献花を行った。開催直前まで小雨が降り続いていたが、11時には雨も止み、200名を

超える参列者があった。



参列者



動物慰霊碑

大学院工学系研究科・工学部

部局

ヴァヌアツ共和国への救急車贈呈に
協力

大学院工学系研究科・工学部では大学院共通科目「創造性工学プロジェクト」、工学部共通科目「創造的ものづくりプロジェクト」を提供している。その中の「ヒストリックモンテ参戦プロジェクト」では、同プロジェクトでラリーカーのドライバーを務める川崎北ロータリークラブ国際奉仕委員長の松波登氏より、同クラブが実施する「第5回ヴァヌアツ国際奉仕団」（下記参照）への協力要請があり、ヴァヌアツ共和国への救急車贈呈に協力を行った。この救急車は、川崎市消防局の協力で、ヴァヌアツ共和国のポートヴィラ国立中央病院へ寄贈されるもので、プロジェクトメンバーが、ステッカーの作成、装飾で協力した。プロジェクトを通して、国際奉仕活動に携われたことは、大きな経験となった。

1月11日（水）に川崎市消防局にて開催される贈呈式には、指導教員の草加浩平特任教授とデザイン担当の安住仁史がメンバー代表として出席する予定である。贈呈式では、川崎市消防局から、川崎北ロータリークラブを

はじめとする川崎の5つのロータリークラブに、この装飾した救急車が贈呈される。3月には国際医療奉仕団を結成し、ヴァヌアツ共和国に現地で贈呈される。

ヒストリックモンテ参戦プロジェクトは、学生16名が主体となり、自動車整備士養成学校である関東工業自動車大学校と協力して約40年前の旧車をレストア・改造し、ラリー・モンテカルロ・ヒストリックに参戦し、完走することを目指している。目標達成に向けた全ての活動が、ものづくりの一環の流れであることを身体で感じることと、競技に出るために海外に行き、国際交流をすることによる国際人育成を目指し、立ち上げられたプロジェクトである。昨年5月から始まったプロジェクトもいよいよ最終章となり、1月30日(月)にトリノをスタートして、2月4日(土)にモナコにゴールの予定である。是非Webサイトを御覧いただきたい。

<http://monterally.jp>

注)「ヴァヌアツ国際奉仕団」は川崎北ロータリークラブが2001年から始めたヴァヌアツ共和国への奉仕活動で、継続的に医療支援を行っており、今回が第5回となる。



船積みされたヒストリックモンテ参戦車両



関係者と東大ロゴの入った救急車



ヴァヌアツ共和国に贈呈される救急車

キャンパス ニュース



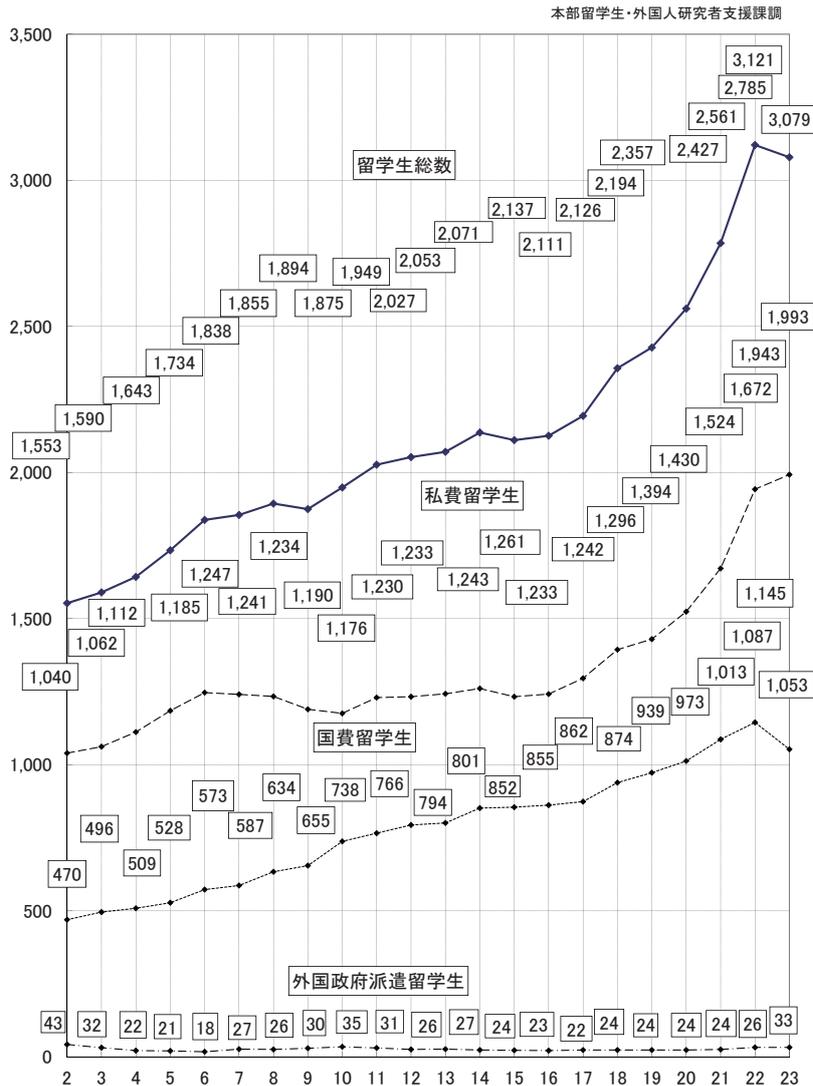
キャンパス

本部留学生・外国人研究者支援課

平成23年度外国人学生数—国費外国人留学生数1,053人、私費外国人留学生数1,993人
外国政府派遣留学生数33人、その他の外国人学生（在日外国人学生）数294人—

本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の外国人学生数を調査している。これをもとに各年度11月1日現在の外国人留学生数の推移を示した。また、本年11月1日現在の外国人学生数は次頁以降のとおりである。

東京大学外国人留学生受入数の推移
(各年度11月1日現在)



全学生数に対する外国人留学生数の比率

事項	A 全学生数 (人)	B 日本人学生数 (人)	C 外国人留学生 (人)	C/A 比率	平成22年度 比率
学部レベル	14,147	13,743	267	1.89%	2.10%
大学院レベル	14,484	11,515	2,812	19.41%	19.25%
計	28,631	25,258	3,079	10.75%	10.72%

※全学生数欄には「その他の外国人学生」（在日外国人学生）を含む。

※学部レベル学生数（全学生数及び外国人留学生数）には、学部特別聴講学生25名を含む。

※大学院レベル学生数（全学生数及び外国人留学生数）には、大学院特別聴講学生44名を含む。

※研究所に所属する外国人研究生4名は、大学院レベル学生数（全学生数）に含む。そのうち4名は、外国人留学生数にも含む。

※比率欄の数は四捨五入。

平成23年度外国人学生数

平成23年11月01日現在

区分	学部				大学院								研究所等		合計			
	学生		研究生等		修士課程		専門職学位課程		博士課程		外国人研究生等		大学院研究生				研究生	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
国費(a)	73	38	0	0	163	107	6	4	318	198	84	62	0	0			644	409
	111		0		270		10		516		146		0				1053	
外国政府派遣 タイ	4	4	0	0	2	2	0	0	4	0	0	0	0	0			10	6
	8		0		4		0		4		0		0				16	
外国政府派遣 マレーシア	1	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0			5	0
	1		0		2		0		2		0		0				5	
外国政府派遣 シンガポール	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			3	1
	4		0		0		0		0		0		0				4	
外国政府派遣 韓国	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			7	0
	7		0		0		0		0		0		0				7	
外国政府派遣 アラブ首長国連邦	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			1	0
	1		0		0		0		0		0		0				1	
計(b)	16	5	0	0	4	2	0	0	6	0	0	0	0	0			26	7
	21		0		6		0		6		0		0				33	
私費(c)	39	40	12	18	327	290	25	26	479	371	135	145	9	4	1	1	1027	895
	79		30		617		51		850		280		13				1922	
小計(d)((a)+(b)+(c)) (在留資格「留学」の者)	128	83	12	18	494	399	31	30	803	569	219	207	9	4	1	1	1697	1311
	211		30		893		61		1372		426		13				3008	
私費(e) (在留資格「留学」以外の者)	18	7	1	0	4	1	0	0	16	12	8	2	0	0	1	1	48	23
	25		1		5		0		28		10		0				71	
外国人留学生合計(f) ((d)+(e))	146	90	13	18	498	400	31	30	819	581	227	209	9	4	2	2	1745	1334
	236		31		898		61		1400		436		13				3079	
永住者等(g)	101	35	1	0	53	20	6	2	36	34	2	2	2	0	0	0	201	93
	136		1		73		8		70		4		2				294	
外国人学生 総計(f+g)	247	125	14	18	551	420	37	32	855	615	229	211	11	4	2	2	1946	1427
	372		32		971		69		1470		440		15				3373	

学部・研究科等別外国人留学生数

平成23年11月01日現在

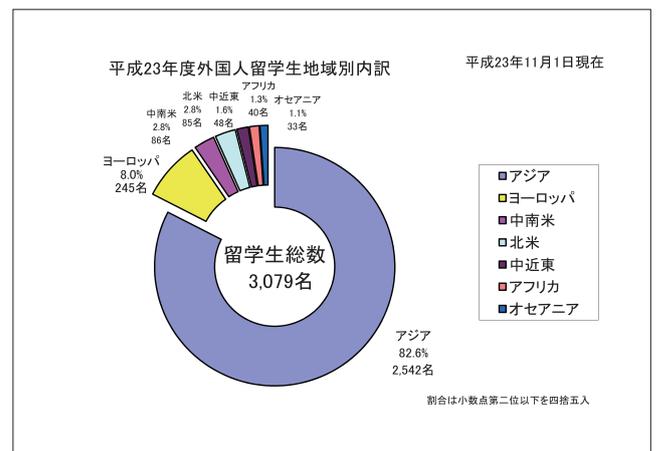
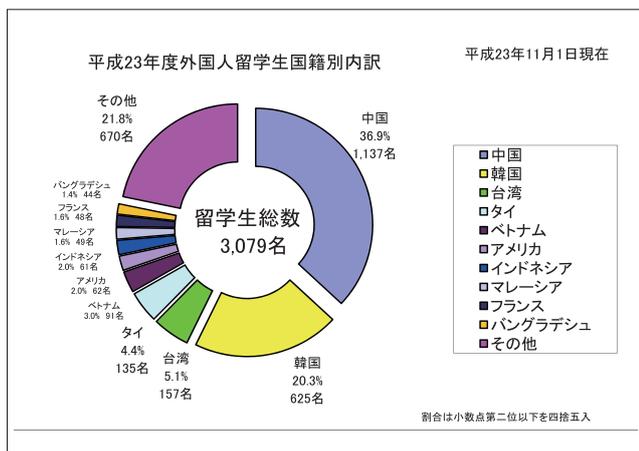
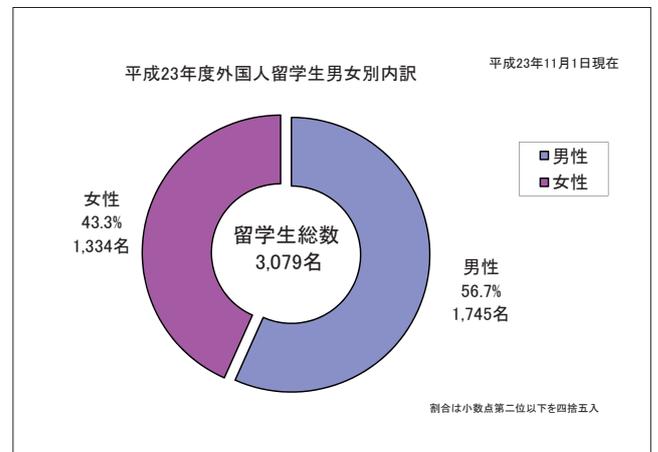
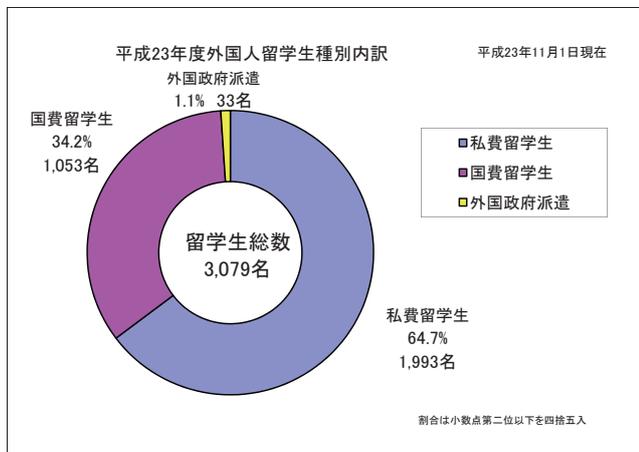
区分	学部				大学院								研究所等		小計		合計	
	学生		研究生等		修士課程		専門職学位課程		博士課程		外国人研究生等		大学院研究生					研究生
	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費
学部																		
教養学部 (前期課程)	44	66															44	66
法学部	7	4															7	4
医学部		2		1														3
工学部	31	27		8													31	35
文学部	7	2															7	2
理学部	6	5															6	5
農学部	1	2		3													1	5
経済学部	4	9															4	9
教養学部	8	3		19													8	22
教育学部																		
薬学部	3	5															3	5
小計	111	125		31													111	156
大学院																		
教育学研究科					1	14			6	32	1	6					8	52
薬学研究科					3	6			6	13	4	7					13	26
情報理工学系研究科					25	44			41	49	13	14					79	107
学際情報学府					12	33			21	32	7	26					40	91
人文社会系研究科					13	32			19	42	19	32		4			51	110
法学政治学研究科					4	25		3	5	27	7	10					16	65
経済学研究科					9	34			2	8	4	5					15	47
総合文化研究科					19	48			36	91	23	45		3			78	187
理学系研究科					5	18			24	15	5	3					34	36
工学系研究科					120	238			214	323	40	81		2			374	644
農学生命科学研究科					13	50			78	98	12	35		2			103	185
医学系研究科					7	17	2	2	21	71	7	9		2			37	101
数理学研究科					5	7			6	2	1						12	9
新領域創成科学研究科					34	62			37	81	3	14					74	157
公共政策学教育部							8	46				3					8	49
小計					270	628	10	51	516	884	146	290		13			942	1866
研究所等																		
情報学環																		
公共政策学連携研究部																		
医科学研究所																1	1	1
地震研究所																		
東洋文化研究所																		
社会科学研究所																		
生産技術研究所																3	3	3
史料編纂所																		
分子細胞生物学研究所																		
宇宙線研究所																		
物性研究所																		
海洋研究所																		
先端科学技術研究センター																		
大気海洋研究所																		
数物連携宇宙研究機構																		
小計																4		
合計	111	125		31	270	628	10	51	516	884	146	290		13		4	1053	2026

国籍別外国人留学生数

平成23年11月01日現在

区 分	国費						私費						合 計						総計		
	学部		大学院等				学部		大学院等				学部		大学院等						
	学部	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	小計	学部	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	小計	学部	研究生等	修士課程	専門職学位課程		博士課程	研究生等
アジア																					
パキスタン			3		8		11			5		2	2	9			8		10	2	20
インド	1		5		17	2	25			2		7	2	11	1		7		24	4	36
ネパール			1		6	1	8			10	5	8	2	25			11	5	14	3	33
バングラデシュ	3		2		13	1	19			9	1	15		25	3		11	1	28	1	44
スリランカ			5		7	1	13			5	1	5	1	12			10	1	12	2	25
ミャンマー			4		6		10			6	1	2		9			10	1	8		19
タイ	11		30		28	7	76	8		15	4	25	7	59	19		45	4	53	14	135
マレーシア	7		9		6	4	26	2	2	6	1	9	3	23	9	2	15	1	15	7	49
シンガポール	6		4	2	2	1	15	4	1	6	1			12	10	1	10	3	2	1	27
インドネシア	4		9		11	1	25		2	11	4	15	4	36	4	2	20	4	26	5	61
フィリピン			6	1	12	1	20		1	8	4	1	1	15		1	14	5	13	2	35
韓国	26		40	2	98	22	188	34	2	116	5	234	46	437	60	2	156	7	332	68	625
モンゴル	10		2		4	1	17	1		6	1	4		12	11		8	1	8	1	29
ベトナム	21		15		11	2	49	1	2	14	2	18	5	42	22	2	29	2	29	7	91
中国	1		39	1	171	31	243	70	10	318	13	336	147	894	71	10	357	14	507	176	1137
カンボジア			3		1	1	5			1		2		3			4		3	1	8
ブータン										1				1			1				1
ラオス					1		1			1		2		3			1		3		4
ブルネイ												1		1					1		1
マカオ	2						2			2				2	2		2				4
台湾								1		35	3	94	24	157	1		35	3	94	24	157
パレレン												1		1					1		1
小 計	92		177	6	402	76	753	121	20	577	46	781	244	1789	213	20	754	52	1183	320	2542
中近東																					
イラン	1		1		7	2	11			2		5	7	7	1		3		12	2	18
トルコ			6		3		9			1		3	2	6			7		6	2	15
シリア					1		1												1		1
レバノン			1		1	1	3										1		1	1	3
イスラエル				1	1	2	4											1	1	2	4
ヨルダン			2		1		3										2		1		3
アフガニスタン			1		1		2										1		1		2
イエメン												1		1					1		1
アラブ首長国連邦								1						1	1						1
小 計	1		11	1	15	5	33	1		3		9	2	15	2		14	1	24	7	48
アフリカ																					
エジプト					4		4					4		4					8		8
スーダン					1		1					2		2					3		3
チュニジア					4	1	5												4	1	5
アルジェリア						1	1													1	1
マダガスカル			1				1										1				1
ケニア					1	1	2					1		1					2	1	3
タンザニア			1				1			2		1		3			3		1		4
コンゴ民主共和国												1		1					1		1
ナイジェリア					1	1	2			1		1		2			1		1	1	3
ガーナ					1	1	2			1	1		2			1	1		1	1	3
モロッコ					1		1			2				2			2		1		3
エチオピア					1		1			2				2			2		1		3
ベナン					1		1												1		1
マラウイ										1				1			1				1
小 計			2		13	5	20			9	1	10		20			11	1	23	5	40
オセアニア																					
オーストラリア			4		5	1	10	1	1	3		3	3	11	1	1	7		8	4	21
ニュージーランド			2		1	2	5			1	1		3	5			1	3	4	2	10
パプアニューギニア					1	1	2													1	1
フィジー					1	1	2													1	1
小 計			6		6	5	17	1	2	4		6	3	16	1	2	10		12	8	33
北米																					
カナダ	1		1		4	1	7			7	1	7	1	16	1		8	1	11	2	23
アメリカ	2		3	1	8	6	20	1	1	13	2	20	5	42	3	1	16	3	28	11	62
小 計	3		4	1	12	7	27	1	1	20	3	27	6	58	4	1	24	4	39	13	85
中南米																					
メキシコ			1		3	2	6			1		4		5			2		7	2	11
エルサルバドル	1						1							1	1						1
コスタリカ										1				1			1				1
キューバ			1		1		2										1		1		2
ドミニカ共和国					1		1												1		1
ブラジル	4		12	1	13	4	34			1		3	4	4	4		13	1	16	4	38
パラグアイ										1				1			1				1
アルゼンチン	1		1		1	1	4								1		1		1	1	4
チリ						2	2													2	2
ペルー			2			1	3					4	1	5			2		4	2	8
エクアドル			1				1										1				1
コロンビア			1		4	3	8					1		1			1		5	3	9
ベネズエラ			1		2		3										1		2		3
パナマ			1		2		3										1		2		3
トリニダード・トバゴ					1	1	2													1	1
小 計	6		21	1	27	14	69			4		12	1	17	6		25	1	39	15	86

区分	国費							私費							合計							総計
	学部		大学院等					学部		大学院等					学部		大学院等					
	学部	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	小計	学部	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	小計	学部	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等		
ヨーロッパ																						
アイスランド			1				1													1		1
フィンランド	1		1				2	1				1	2	4	1	1	1			1	2	6
スウェーデン	2		1			2	5		1			2	8	11	2		2			2	10	16
ノルウェー					1		1					1	1	2						2	1	3
デンマーク												1	1	2						1	1	2
アイルランド			1				1										1					1
イギリス			2		3	3	8		1	1		2	3	7		1	3			5	6	15
ベルギー			1		2		3			1			2	3			2			2	2	6
オランダ	1				1	1	3					2	1	3			1			3	2	6
ドイツ			3		2	3	8		2	1		8	6	17		2	4			10	9	25
フランス			12		8	5	25		2	2		7	12	23		2	14			15	17	48
スペイン			3	1	3	2	9					2	1	3			3	1		5	3	12
ポルトガル			3		4		7							3			3			4	3	10
イタリア			1		1	4	6		1			1	1	3		1	1			2	5	9
ギリシャ			4			1	5										4				1	5
オーストリア					1		1		1					2		1				1	2	4
スイス			1		1	1	3			1		1	5	7			2			2	6	10
ポーランド			2		1	4	7					1	1	2			2			1	5	8
チェコ					1	1	2					1		1						2	1	3
ハンガリー	1		1		2		4					1		1	1		1			3		5
ルーマニア	1		1		1		3					1	1	2	1		1			2	1	5
ブルガリア			2		2	1	5					2		2			2			4	1	7
ロシア	3		2		3	4	12	1		1	1	1	1	5	4		3	1		4	5	17
エストニア						1	1														1	1
ラトビア						1	1														1	1
スロバキア												1		1							1	1
ウクライナ			2		2		4										2			2		4
ウズベキスタン												1		1						1		1
カザフスタン										1				1			1					1
クロアチア			1				1					1		1			1			1		2
マケドニア			1				1										1					1
セルビア					1		1			2		2		4			2			3		5
キルギス					1		1													1		1
グルジア			1				1										1					1
トルクメニスタン	1		1				2								1		1					2
小計	9		49	1	41	34	134	1	8	11	1	39	51	111	10	8	60	2	80	85	245	
合計	111		270	10	516	146	1053	125	31	628	51	884	307	2026	236	31	898	61	1400	453	3079	





～総長通信～

President's Improvisation Vol.6

このコーナーでは、日々の活動の中で、総長が考えておられることを皆さんにお知らせしていきます

「明日の東京大学」への道筋を。

濱田純一

年が明けて、久しぶりに総長通信の再開です。昨年は、3月11日の大震災の発生によって、日本社会は大きな衝撃を受けました。その中で、被災地、被災された方々への救援や復興支援、学内での緊急対応など、教職員・学生の皆さんには、それぞれの立場で奮闘いただき、ボランティア活動も含めて東京大学の底力を改めて感じました。未だ行方不明の方々も多く、またたくさんの方々が避難生活や生活再建のために厳しい毎日を送っておられます。引き続き東京大学として、支援と復興に力を注いでいきたいと考えていますので、皆さんそれぞれにおかれても重ねてご尽力をお願いします。

今年は、私の6年間の任期の折り返し点となります。『行動シナリオ』をベースとする東京大学のさらなる強化のための方向は、すでに学内外でかなり理解いただけたかと思えます。そうしたタイミングを踏まえて、私は今年を、何より、「攻め」の年としたいと願っています。『行動シナリオ』の内容の着実な実現と、その実現に目途をつける、つ

まりは「明日の東京大学」にしっかり道筋をつけるための、最も重要な年と位置付けたいと思います。

そうした取組みの一つとして、すでに皆さんのお手元に、「『入学時期の在り方に関する懇談会』の中間まとめ」が、学内広報の特集版として届いていることと思います。いわゆる「秋入学」導入の問題に関する検討報告です。しっかりと目を通していただき、そのメリット、デメリットを幅広く議論いただければと願っています。問題の社会的影響からして、議論は学内だけのものにとどまりません。その可能性を探り、また条件づくりに取り組むために、多くの大学や産業界はじめ社会と連携体制を築きつつありますが、皆さんも、それぞれの立場で、学外の方々とも積極的に議論を交わしていただければと思います。

こうした議論の際にぜひお願いしたいことがあります。一つは、いまの現実の制度や仕組みに引きずられるのではなく、「明日の東京大学」をどうやって作っていけばよいのかという、10年、20年先の大学の姿

を見据えた議論をいただきたいということです。もう一つは、現実の制度的限界などを所与として困難を云々する、あるいは思考を停止するのではなく、理想を実現するための社会的な障害があるのであれば、それをあなた任せではなく、大学自らの手で取り除いていくという姿勢をもっていただければということです。こうした姿勢はまさしく、学術とそのサポートを生業とする大学人の生き方そのものでもあると信じています。

この「秋入学」の問題は、学事日程の海外大学との調整ということにとどまらず、国際化に対する意識、真の「タフさ」に対する評価、人生における「ギャップ」の意味付け、雇用や職業生活の在り方など、重要な社会的課題を多く含んでいます。それは大胆に言えば、「明日の日本」の床柱を作ろうとする試みですが、そうした大きな視野を持ちながら、丁寧な議論と果敢な取組み、広範な連携を着実にすすめていきたいと考えています。



「入学時期の在り方に関する懇談会」中間まとめ特集版
※ウェブでも閲覧できます。

学内意見募集
1/20～2/15
入学時期の検討「中間まとめ」

入学時期検討の特設ページでは「中間まとめ」の学内意見募集も行っています。詳しくは「東大トップページ」→「学内意見募集」コーナーで。



ひょうたん島通信

大槌発!

第1回

岩手県大槌町の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターのすぐ目の前に、蓬莱（ほうらい）島という小さな島があります。井上ひさしの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルともされるこの島は、「ひょうたん島」の愛称で大槌町の人々に親しまれてきました。ひょうたん島から毎月、沿岸センターと大槌町の復興の様子をお届けします。

定期的は大槌に通って思うこと 白井厚太郎（大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター助教）

私は2007年8月から2009年3月まで約2年間、大槌にある国際沿岸海洋研究センターで研究員をしていました。2011年4月から助教として大槌で働く予定でしたが、震災のため現在は柏キャンパスで研究をしています。「ひょうたん島通信」の最初の執筆者として「海洋研究にける意気込み」のようなことを書くべきかと思いましたが、それ以上に大槌の現状を知っていただきたいと思い、定期的は大槌に通って私が思うことを紹介します。

震災後、平均すると月に1度の頻度で大槌に行っています。震災後初めて行ったのは4月でしたが、1ヶ月でだいぶ瓦礫が片付いていたにもかかわらず、実際に自分の目で見た光景はテレビなどで見たよりもはるかに凄惨だったというのが第一印象です。その後しばらくは行くたびに瓦礫が片付いていったのですが、最近は簡単に

片付けられるところも少なくなってきて、復興のペースが低下してきている印象を持っています。テレビや新聞では被災地のニュースの割合が減ってきて、内容も比較的明るいものが増えてきていますが、私の印象では、報道されているよりも現実には厳しい状態で、まだまだ不自由な思いをされている方が多くいると感じています。

被災地から遠く離れた地で生活をしていると震災のことを考える頻度がだんだん減ってくるかと思いますが、被災地のことを心に留めておき風化させないことが大切だと考えています。そして、是非多くの方々に大槌に足を運んでいただき、直接見て肌で感じていただきたいと思っています。大槌の魅力はなんと言ってもきれいな海と美味しい海産物で、これは現地であれば満喫することができません。震災で両方と

も大きなダメージを受けたものの、三陸の美しい海景は今でも満喫できます。美味しい海産物を食べられる場所も徐々にですが戻りつつあります。津波の爪痕から自然の猛威を実感し、おいしい食事から自然のありがたみを感じ、被災地の実情を直接体験し、できるだけ多くの方に共有して頂く事が復興につながるのではと思います。

三陸沿岸の復興に「海の恵み」は欠かすことができません。海洋研究者として津波により沿岸環境・生態がどのような影響を受けたのか、できる限り詳細に研究し、記録として残す必要があると考えています。私は大槌から研究成果を発信することが復興に役立つと信じて研究を進めていくつもりです。



2011年12月14日 城山公民館から



2011年10月27日 沿岸センター屋上から

かわベコラム

国際沿岸海洋研究センター専門職員・川辺幸一です。沿岸センターで震災にあいましたが、その後も毎月、大槌町に足を運んでいます。復興に向け、日々変化を遂げる大槌町のローカルな話題を紹介します。



◆永遠の詩 *The Song Remains the Same* —被災地のオアシス—

突然ですが、今日の昼食は何を食べましたか？

お弁当持参の方もいらっしゃると思いますが、コンビニでお弁当を購入したりラーメン屋さんや定食屋さんなどで外食を楽しまれたりする方が多いのではないのでしょうか。何気ない日常のひとつコマですが、被災地・大槌町ではそんな光景も、もう少し先になりそうです。

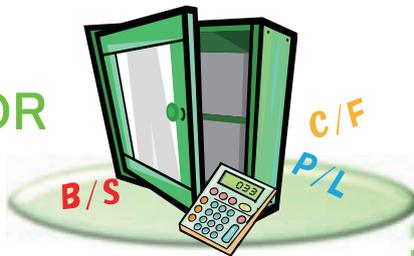
そんな町で、私がまず紹介したいのは、震災後1ヶ月でいち早く店舗を立て直し、2011年4月29日に営業を再開された「ローソン大槌バイパス店」さんです。

新装開店したあとの店内には食事スペースも新しくできていて、となり町の釜石から大槌に入る道ぞいに立地しているため、大槌町民の皆さんのみならず、ボランティア活動で町を訪れる方々、ガレキ処理や復旧工事で町を訪れる方々が集まり、終日賑わいをみせています。まだ街灯も整備されていない大槌町は陽が沈むと街全体が真っ暗になります。その中でこのローソンの灯りが光り輝き、復興に向けての「希望の光」を放っているように私には思えるのです。



決算のDOOR

～数字が語る
東京大学



第16回 動物のお医者さん

当たり前ですが、民間企業は儲けが命。そのため民間企業にとって「収益」とは売上が儲け(=利益)の源であり、その企業の経営成績に深くかかわるものです。その「収益」を産み出すため、企業では開発、生産、営業、販売などの業務活動が日々行われています。一方、「何言ってるんだい、八つつあん、うちにとってまず大事なのは教育と研究だよ」という国立大学法人にとって「収益」とは大学の業務活動を滞りなく行うために必要不可欠な財源のこと。国からの交付金や補助金、個人からの寄附金や企業や法人からの受託研究費、学生からの入学金や授業料、附属病院の診療収入、特許料や財産貸付料などその他雑収入などの「収益」が日々の教育・研究・診療活動をしっかり支えています。

さて、そんなモロモロの収入の中でちょっと特徴的なのが「家畜治療収入」。農学部の附属動物医療センターの診療収入です。獣医師の育成と獣医学の発展を目的に弥生キャンパスに設置された動物医療センターは、内科、外科、行動治療科の3科に分かれ、犬や猫など小動物を中心に診療を行っています。ホームドクターからの紹介による二次診療機能もあるため、全国各地から患者が集まり、入院、外来及び教育などで常時100頭ほどの動物が治療を受けています。昨今のペットブームも影響してか患者数は年々増加し、今年年間延べ2万頭。様々な症例が集まり、臨床研修の場としても高度獣医療の研究の場としても大きな役割を果たしています。ちなみに年間収入はおおよそ5億円ほど。法人化時に比べ1億円もUPしています。



動物医療センターの診療室は「動物のお医者さん」を目指す学生の貴重な実習の場でもあります

動物はヒトと違い社会保険制度がない自由診療。特に町医者では手に負えない重篤な状態も多く、1回の入院費が50～60万円に至ることも！中には高額な診療費にびっくり仰天し、支払が滞る飼い主さんもいるため、支払いは現金だけではなくクレジットカード払いにも対応できるようにし、飼い主さんの負担はもちろんのこと、センター内での現金管理のリスクも減らしています。

「よくなっていく子を見るのは嬉しい」一言葉を話せない動物が少しでも快適に治療を受けられるよう、センターのスタッフみなさんの努力は、病気の動物だけでなく、先生方の研究や学生さんへの教育にもつながっているのですね。(青)



毎日50頭くらい訪れる2階の待合室は病気のせいか鳴き声もなく、とても静か。犬や猫の他にもカメや蛇、スカンク、ヤギ、豚、なんとライオンまで来たそうです。

本部財務部決算課 (内線22126)

E-mail: kessanka@m1.adm.u-tokyo.ac.jp

◆このコラムは一見複雑な国立大学法人会計をわかりやすくご紹介することを目的とし、文章の読みやすさを重視しているため、ある程度恣意的な表現を取ります。あらかじめご了承ください。一ご意見、ご質問お待ちしております！

インタプリターズ・ バイブル

vol. 54



科学技術インタープリター養成プログラム

三大災害とサイエンスインタープリター

黒田 玲子

大学院総合文化研究科 教授
教養学部附属教養教育高度化機構
科学技術インタープリター養成部門長

昨年3月11日に東日本を襲った地震・津波・福島第一原発事故は、科学コミュニケーションに関わる問題点を科学者に、社会に顕在化させることになった。専門家とは何だろう？専門家によって意見が異なれば、市民は誰の発言を信じてよいか混乱する。原発関係といっても、核分裂反応、原子炉工学、生物への放射線の作用、粒子の拡散など多様な専門家がいます。専門分野から外れているため不確かなまま善意に述べた意見も専門家の意見として社会に影響を与える。科学者として事実を言っても、マスコミをはじめ社会には誤解され非難されることもある。それを見て、だんまりを決め込む専門家も出てくる。その上、現在の科学技術では予見不可能なこともたくさんある。しかし、そのような状況においても政策決定がなされなくてはならない場合もある。専門家と政治家の判断の基準は同じではなく、専門家の助言がそのまま行政に反映される必然性はない。重要なことは、行政と科学者がお互いの意見を尊重し、その違いととった施策の理由を説明する責任があるということである。

ユニークボイス(たったひとつの声)がある方が、社会は混乱しないとも考えられる。イギリスの政府首席科学顧問は、委員会を通して科学者の意見を聴集し、緊急事態にも直ちに首相に直接助言する。今回の原発の事故後に、チャーター機で自国民を日本から退出させた国があった一方で、イギリスが冷静に振舞ったのは、この制度のおかげである。見識があり、人物高潔で人望もある人がリーダーであれば、うまく機能する制度である。しかし、ユニークボイスには弊害も想定される。それに、現代は、多くの国民がツイッターで個人的見解を述べる時代であり、それがおおきな声となり、政治を動かすこともある。公的発表の信頼性が損なわれていけば、尚更である。

1996年に「社会的リテラシーをもった科学者、サイエンスリテラシーを持った市民、そして社会と科学の架け橋となるインタープリターの養成必要性」を提唱してから、すでに15年が経った。科学技術創造立国日本のための理科好き子供たちの養成、難しい科学を分かりやすく解説する広報活動は盛んになったが、意見の対立する「社会の中の科学」に関する諸問題への対応の仕方、社会的リテラシーを持った科学者の養成の側面は、置き去りの観があった。「どう伝えるか」だけでなく「何を伝えるのか」をもキーワードとして、東大全学の大学院生を対象とした副専攻、科学技術インタープリター養成プログラムを設立した所以でもある。現在、7期生が履修するまでになり、たちあげに携わった者として感慨深い。小職は本年3月を持って東大を定年となる。これまでの多くの方々のご尽力に改めて感謝の意を表すとともに、三大災害で顕在化した問題点もふまえ、今後、ますます発展していただきたいと思います。

★科学技術インタープリター養成プログラム
<http://science-interpretor.c.u-tokyo.ac.jp/>

テクノロジー・リエゾン・フェロー、略して、TLF研修制度は、産学官連携による地域経済再生を目指そうと、自治体のキーパーソンを育成する目的で、2000年に設立された研修制度です。この制度から派生したネットワーク組織「東京大学地域振興研究会」は、首都圏の総合大学として、地域に対して何ができるのか議論する場を設けようと、2008年に立ち上げられました。今回は、11月21日に行われた当研究会の平成23年度総会についてご紹介します。

平成23年度 総会 東京大学地域振興研究会

震災後の地域活性化を考える

今回のテーマは、「震災後の地域活性化を考える」。派遣元の自治体で活躍する修了生ら約52名が参加して、事例調査研究の成果が発表されました。

冒頭、保立和夫産学連携本部長は、「東日本大震災後、初めての開催であることから、今回は震災後の地域活性化について考えようということになりました。それぞれの地域でどのようにして、より元気になっていこうとしているのか、新しい刺激を受けるようなご縁につながればと願っています」とあいさつされました。

今回の総会には、本研究会主査の神野直彦本学名誉教授（総務省地方財政審議会長、元経済学部長）から、TLF研修生へ向けたメッセージが寄せられました。神野名誉教授には、当研究会設立にご尽力をいただいています。



TLF研修修了生と今年度研修生。33都道府県と市区から70名が研修を受けています

事例・調査研究報告

TLF修了生の事例・調査研究報告では、各地から集まったTLF研修修了生が、それぞれの取り組み事例について発表しました。

茨城県生活環境部消防防災課の高野佳樹氏（2期修了生）は、東日本大震災時の被害状況と、その対応策について報告。また、災害対策における筑波大学との研究体制などを紹介しました。

青森県庁商工労働部新産業創造課の村下公一氏（5期修了生）は、ライフケア産業におけるこれまでの取り組みと、イノベーション促進に向けた新戦略の構築、県の持つ優位性を活かした検討事例について説明しました。

秋田県庁企画振興部学術振興課の佐々木揚氏（11期修了生）は、当本部での研修をもとに、県内における共同研究のマッチングを促進し、成果が得られた事例を紹介。

滋賀県立大学事務局地域貢献研究推進グループの小森聡氏（4期修了生）は、文部科学省補助事業の地域イノベーション戦略支援プログラムに採択された「電気と熱の地場消費型スマートグリッドシステムの開発」について、その方向性と取り組み事例を披露しました。

文京区民部経済課の有賀俊氏（10期）からは、当本部事業化推進部との共同研究「社会起業家育成アクションラーニングプログラム」の成果報告がされました。

また、奈良県産業・雇用振興部工業振興課の森田英樹氏（10期修了生）からは、紀伊半島の大水害に関する被災状況の資料が寄せられました。地元が被災した修了生の数名が、今回の総会に参加できませんでしたが、震災や水害が発生した被災地での、TLF修了生の活躍ぶりが伺える貴重な総会となりました。



「東京大学地域振興研究会平成23年度総会」で行われた講演内容をご紹介します。TLF研修修了生をはじめ、参加者が熱心に耳を傾けました。



「地域活性化は、グローバルに」

日本アルコール販売顧問
元中小企業庁長官 前NEDO副理事長
福水 健文氏

30の20年、日本経済はまったく成長していない。地域の経営が非常に厳しい。日本が元気になって復興していくためには、まず地方が元気にならなければいけない。地域活性化として、①大分県の「一村一品運動」②徳島県上勝町の「いろどり事業」③北海道の旭山動物園の3件が地域活性化策の教訓を多く含んでいる。人がやっていないことをする、そのためにはまず、自分が変わらなければいけない。地域活性化をイベントとして捉えず、継続的

な取り組みをしないといけない、事業になっていかない。行政は役人ばかりを集めず、今までの価値観と異なる価値観を持つ若い人や女性が取り組んでいる事業をサポートしてあげることが大切。また、どんな田舎であっても、ITを使えば全世界を相手に商売ができる。それぞれの地域が活性化しないと、日本全体が活性化していない。東日本大震災が、日本にとって分水嶺になるかもしれない。震災後の今こそ、地域活性化していくことが大事ではないか。

「復興のなかの確かな希望」

東京大学社会科学研究所
玄田 有史教授



過去に深刻な挫折や試練を経験して、それを自分なりに乗り越えてきた自負を持つ人ほど、未来に対して希望を持っている。過去の試練は希望につながっていくのか、また、挫折を新しい希望に変えていく、そこには何かがあるのか知りたいと思い、被災地である釜石を訪問した。失敗は事実である一方、挫折は過去の厳しかった状況を今の自分の言葉で語る事ができる点で、失敗とは異なる。未来の成功は起こってほしい事実であるのに対し、希望は未来にこういう状況にしたいということを語れること。挫折と希望に関係があるのは、過去と未来という時間軸が正反対で、現在つ

ながっているところに大きなヒントがある。希望は自分たちの手で作っていくもの。サポートが当たり前になってしまうような依存的な状況避け、一人ひとりが自分たちでやるという気持ちを作っていくなければ地域復興はなりたない。地域再生の条件は、緩やかな内外のネットワークを絶えず常に拡大し、ローカルアイデンティティを再構築していくこと、そして希望の共有を対話の中で地道に繰り返していくこと。これらが産学連携をはじめ、地域の中での振興や新しい希望を生み出そうとしている方のヒントになってほしいと願わずにはいられない。

「日本で価値を生み続ける金の卵」

経済産業省地域経済産業グループ 地域政策研究官 細谷 祐二氏



非常に限られた分野で、人より先に行動を起こし、持続できる能力を持った企業、そして製品に高い競争力があることで、海外からも高い評価を得ている「グローバルニッチトップ企業」が日本全国に生まれている。これらの企業は、他の企業を巻き込んだ新しい発想で取り組んでいるため、支援機関同士がうまく連携することで、他の地域でも交流のネットワー

を作るという考えや可能性も出てくる。中小企業の中でも、特に独立性が高く、技術的に優れているこのような企業と、地域振興において優れた取り組みをネットワークを通じて行うといった場合に、共通の社会現象、キーワードが見られる。「グローバルニッチトップ企業」を有していない地域は、こういう企業もあるということを知り認識すべきである。

このページでは、政策ビジョン研究センターが現在最も重要視しているトピックスを中心に、そのときどきのホットニュースをお届けします。

東日本大震災後の東アジアを考える 3.11 後の国際支援と 災害からの教訓

東京大学、米プリンストン大学、北京大学、高麗大学、シンガポール国立大学の五校が提携して行った五大学連合国際会議の一環として、東日本大震災後の東アジアを考える公開フォーラムが行われた。

東日本大震災後の Disaster Relief について、また震災が東アジアに与える影響について、第一線で活躍しておられる実務家、政治家の皆様にご登壇いただき、それぞれに異なる重要な観点から論じていただいた。

北岡伸一本学教授の基調講演では、東日本大震災で多方面から寄せられた国際的支援に謝意を表すとともに、日本政府の取組で明らかになった主な課題は、情報を国民に積極的に伝え、政府への信頼を確保すること、IAEA などに対しより効果的な協力体制を築くなど、よりよい国際協力に向けて努力することの二点であるとした。

続いて行われたパネルディスカッションでは、まず四方敬之氏から、内閣官房国際広報室の室長として、3.11 およびその後の広報に携わった経験が語られた。最も困難な課題は、一貫性のある広報、政府として統一され矛盾のない情報の提供と、そうした情報をいかにスピード感を持って伝えるかという試みの両立にあったという。同氏は、アジアにおいて、津波被害の経験とそこにおける学びを共有することが急務であり、また大災害などの危機においては政府の対応

や情報の透明性が極めて重要であるとした。

続いて防衛省陸上幕僚監部人事部長の松村五郎陸将補が、国際防衛協力を行うことは、各国の軍の相互理解を進展させ、透明性を高め、危機の際にプラスに作用し、対テロ対策などの協力を発展させると語った。自衛隊の災害対処における役割については、救援・復興支援活動をいつ民間主体の活動に引き継ぐかという、通常への復帰のタイミングが大きな問題であるとの認識を示した。最後に、二国間防衛協力と多国間防衛協力を同時に実行することが必要で、多国間協力の進展は地域の安全保障に資すると結論付けた。



司会する藤原 帰一教授

東日本大震災復興対策担当の総理補佐官を務める末松衆議院議員は、今般の大震災と原発事故による被害と対応策がいかに甚大かつ長期的な影響を持つものであるかを語った。原発に関しては津波対策、サイバーテロ対策等、安全対策を再検討・強化することが必要であり、その対策の合理性は今回の原発災害を受けて変化を迫られているとした。また、政府の信頼回復という問題に関しては、日本のメディアの報道の在り方にも責任の一端があるとした。

最後に衆議院の安全保障常任委員会の委員長を務める東祥三参議院議員から、東

日本大震災を受けた日本の長期的な戦略全般についての報告があった。東氏は、東アジアに対して日本のなす最も大きな貢献は日本の再興に他ならないとし、TPP への参加をはじめとする日本の開国や日米同盟を核とした安全保障政策を通じ、中国が台頭しつつあるアジアにおいて、最も古いアジアの民主主義国である日本が安定をもたらす主要な柱となることを肝要であるとした。

四氏の報告に続き、コメンテーターのギルバート・ロスマン米プリンストン大学教授は、日本が必ず復興すると信じているとし、国際協力は進展し、地域の安全保障に資する結果ともなっているとした。また、日本の復興のためには TPP への参加や国際社会への積極的なコミットメントを通じて前進していくことが肝要であるとした。

質疑応答では、米国の寛大な支援への評価や、ODA 予算の増額を目指すべきなどのコメントが提出された。大震災の経験を受け今後の日中関係は全体としてはどのように進展していくのかという疑問も上がった。さらに、日本の経験から今後どのように各国が原発の安全対策に取り組むべきかの示唆を導き出そうとするやり取りが活発に交わされた。(文責：三浦瑠麗特任研究員)

http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp_rep111210.html
詳細は当センターウェブサイトをご覧ください。

国際会議 東日本大震災後の東アジアを考える

日時：2011年12月10日(土)
場所：国際文化会館
主催：政策ビジョン研究センター
助成：国際交流基金日米センター/マッカーサー財団
協力：国際文化会館

震災復興支援に関する広報協力 化学工学会から感謝状

政策ビジョン研究センター特任専門職員 山野泰子

東日本大震災に伴う電力不足に関して、2011年3月28日、公益社団法人化学工学会が緊急提言を発表しました。政策ビジョン研究センターではその趣旨に賛同し、PDF で公開されていた提言全文を html 化して、当センターが運営する震災復興政策支援サイトに掲載しました。また、メールや twitter、facebook 等を介して情報を投げかけたところ、大きな反響を呼び、当該ページには3日間で5万を超えるアクセスがあり、メディアからの問い合わせも相次ぎました。

こうした当センターの普及広報活動に対して、12月16日、化学工学会から感謝状を頂きました。授与式は茗荷谷の同学会オフィスにて行われ、化学工学会会長より、センター代表として、坂田一郎教授と山野泰子が感謝状を拝受しました。同時に理学部の広報を担当され、科学コミュニケーションがご専門の横山広美准教授からも、同提言をわかりやすくデザインした冊子にされたことで感謝状を受領されました。



左から江角一朗様、横山広美先生、中尾真一化学工学会会長、秋本祐希様、坂田一郎先生、山野

政策ビジョン研究センターでは引き続き、わかりやすい表現方法や媒体を工夫しつつ、研究者の着眼点・視点を生かしたタイムリーな情報発信に取り組んでいきたいと思っております。

<http://pari.u-tokyo.ac.jp>

「学際的貧困研究」

ASNETでは、日本学術振興会「アジア・アフリカ学術基盤形成事業」に採択された「ケイパビリティ・アプローチによる貧困の学際的研究」を今年度から実施しています。この研究は、大陸部東南アジアの4カ国(ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ)を対象として、その貧困問題を学際的に追究しようとするものです。言うまでもなく、貧困とは所得だけで測れるような単純なものではなく、複雑な要因が絡み合っていて、それを捉えるためには学際的なアプローチが必要です。アマルティア・センが提唱するケイパビリティという概念は、人々の暮らしの良さ(Well-being)を捉えるための多面的な概念であり、本研究ではこの概念を応用します。

ASNETが本研究を行なうことの最大のメリットは、ASNETが持つ東大内の学際的な人的ネットワークを活用するということです。ASNETはこれまで横断型教育プログラム「日本・アジア学」などを通して教育活動の面で人的ネットワークを作り上げてきました。本研究はその人的ネットワークをさらに研究活動に活用しようとするものです。そして、個々の研究者が対象4カ国で持っている人的ネットワークにつなげることによって、さらに人的ネットワークを広げていこうというのが我々の狙いです。

本研究で行なったこれまでの活動としては、2011年9月にベトナム国家大学ホーチミン校のベトナム・東南アジア研究所とカンボジアの王立農業大学の協力を得て、ホーチミン市でセミナーを開催した後、メコンデルタからアンコールワットまで車で移動しながら貧困について議論しあいました。10月には日本でセミナーを開催しました。意外に思われたのは、4カ国の研究者が隣国のことについてよく知っているわけではないこと、日本人研究者も自分の研究対象国以外のことはよく知らないということでした。このことは、研究の視野を広げるためにも本研究のような多国間の学際的研究は重要であることを意味しています。

今年度は、2012年1月にはタイのコンケン大学およびラオスの国立大学等の協力により東北タイとラオスのルアンプラバンで共同調査を行なう予定です。

文：池本幸生(東洋文化研究所/ASNET 教授)



2011年9月 ベトナムでのセミナー

「日本・アジアに関する教育研究ネットワーク」(略称 ASNET)は、日本を含むアジアを対象とする研究者が部局の枠を超えて集まり、新しい教育や研究の可能性を探るために設立された東京大学の機構です。

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

夏のおもひで



職場でのボクです

薬学部に異動し、3度目の冬を迎えました。現在、薬学部会計チーム(執行)に所属し、契約、施設、環境安全、これらの業務を担当しております。さて、施設関係と言うと身近なところでは“エアコンが故障した時に連絡したことがある”“蛍光灯が切れて・・・”などを思い出されるかと思いますが、これが意外と奥が深いのです。例えば、2011年は節電の夏でしたので、我が薬学部では巷で流行の緑のカーテンに挑戦しました。緑のカーテンに採用したゴーヤの苗はグングン伸びて、節電効果は抜群、収穫されたちょっと小ぶりのゴーヤは絶品で、研究室にも配るほどの大豊作でした。同じ頃に植えたヒマワリも元気に咲いて、“常に前を向いて咲いている。そんなヒマワリの姿に元気をもらえた”などの嬉しい言葉もいただけたような・・・? このように薬学部の快適な教育研究環境の維持管理はもとより、色々な面でのバックアップが出来ればと「チーム薬学」一丸となって頑張っております。



「チーム薬学」の日常

得意ワザ：ホルモン焼き(絶妙な焼き加減)

自分の性格：未年の草食系だメー。

次回執筆者のご指名：古瀬武彦さん

次回執筆者との関係：農学部ミドレンジャーズ仲間

次回執筆者の紹介：

やさしくて親切な、イケメンお笑い芸人

コミュニケーションセンターだより No.84

■ 記念にいかがですか？

コミュニケーションセンターの人気商品「御酒」には、オリジナルメッセージや名前を入れることができる事をご存知でしたか？

★御酒オリジナルボトルのお薦め★

東大泡盛、幻のお酒、とも呼ばれる「御酒」には、数種類から字体、お色を選んでいただき、好きなメッセージを入れる事ができます！！

お世話になった方への感謝の言葉を入れてプレゼントしたり、入学・卒業の記念にお薦めです！

ご注文から仕上がりまで**1ヵ月程かかります**
仕上がり後、期間数量限定の御酒**桜ボトル**にすることも可能！
卒・入学記念のご注文はお早めをお願いします★



「御酒陶器ボトル」(720ml) ¥4,200(税込み)
「御酒ミニボトル」(300ml) ¥1,995(税込み)

* 御酒名入れ代詳細(版代含む) *
陶器ボトル ¥2,000 ミニボトル ¥1,500

写真右が桜ボトルです★

次回コミュニケーションセンターだよりにて、詳しくご紹介いたします！

■ 新商品のご案内 文学部カレンダー

文学部カレンダー 2012

¥500(税込み)

文学部より、2012年版カレンダーが届きました。文学部内のこだわりの写真を使った、シンプルなデザインが素敵です。



担当：UTCC三浦



東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：00～18：00
電話：03-5841-1039
<http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp>

No.8

～ 救援・復興支援室より～

■ 救援・復興支援室の活動(12月～1月)

- 12月13日・・・ 部局長及びプロジェクト代表者へ「東日本大震災に関する行事の開催について」(照会)【※切:1月13日】
⇒とりまとめてHPなどで紹介していく予定
- 12月19日・・・ 第8回救援・復興支援室会議
- 12月20日・・・ 登録プロジェクト更新(新規1件)
- 12月～1月・・・ 学習支援ボランティア(学生による被災地の中学生への学習支援。詳細は次号で紹介の予定)を派遣
場所：岩手県陸前高田市「学びの部屋」
A班：12月26日～29日
B班：1月6日～9日
- 1月31日・・・ 第9回救援・復興支援室会議

プロジェクト登録件数

83件

2011年12月20日現在

■ 救援・復興支援室の活動の詳細はウェブサイトをご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/index_j.html

■ 救援・復興支援室

Email: kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
内線：21750

2012年4月1日開業

東京大学伊藤国際学術研究センター、オープン間近！

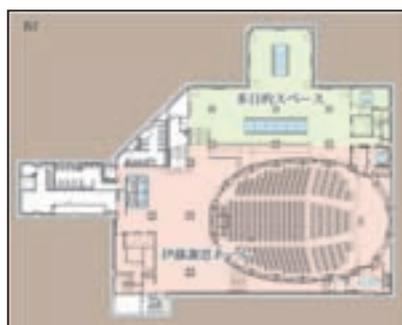


赤門横の学生会分館跡地に建設中の伊藤国際学術研究センターは、4月開業に向け、外囲いも外れ、いよいよ完成間近となりました。

施設の詳細、利用手続等はホームページ (<http://www.u-tokyo.ac.jp/ext01/iirc/>) で公開しておりますが、一部施設概要をお知らせします。

伊藤国際 検索

左: 伊藤謝恩ホール、右上: 外観(赤門側より)、
右下: 外観(本郷通りより)



■B2F 伊藤謝恩ホール、多目的スペース

100～500名まで対応可能な、最新の機器・設備、同時通訳を備えたプレミアム国際会議仕様のホール。併設する多目的スペースを利用し、ポスター展示、分科会、レセプションの開催が可能です。

民間の業務委託先との連携によるプロフェッショナルサポートとして、レセプション企画、ケータリング、宿泊手配、VIP送迎手配等のコンファレンス・サポート・サービスを提供します。

■3F 特別会議室

4m超の天井高と煉瓦の内壁で大変に重厚感のある37名収容の教室。東大EMPメイン教室として音響設備が充実。講義、ゼミ等にもご利用いただけます。



■3F 中教室

音響映像設備を備えた45名収容の会議室。稼動機なのでレイアウトは自由に設定可能。講義、ゼミ、ミニ学会等幅広くご利用いただけます。

■2F 中・小会議室、ファカルティクラブ

中小会議室は、6～12名利用人員に応じて、会議、ゼミ等にご利用いただけます。また、1Fレストランの個室としてもご利用いただけます。

ファカルティクラブは、大学関係者が利用できるパブスタイルのスペースです。気が置けないお仲間との集いの場として、ご利用ください。また、予約制による貸切りパーティーや同窓会、歓送迎会、忘新年会にも最適です。



■1F レストラン、カフェテリア

4月の伊藤国際学術研究センター開業に先立ち、3月上旬(予定)に1Fのレストランがプレオープンします。

ぜひ、足をお運びください。

■問合せ

東京大学伊藤国際学術研究センター運営室

HP ■ <http://www.u-tokyo.ac.jp/ext01/iirc/>

電話連絡先 ■ 03-5841-0779

(電話は、午前9時～午後5時半まで対応)

電子メール ■ itocenter@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

INFORMATION

お知らせ

お知らせ

退職教員の最終講義

学内広報では、今年度末をもって本学を退職される方々の最終講義のお知らせを掲載します。

大学院医学系研究科・医学部

藤田 敏郎 教授

(腎臓・内分泌内科)

日時：3月6日(火) 14:00~15:00

会場：鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)

演題：「腎と高血圧とともに歩んだ30年」

村嶋 幸代 教授

(健康科学・看護学専攻 地域看護学分野)

日時：3月8日(木) 15:00~16:30

会場：医学部2号館本館大講堂

演題：「地域を看護する一個へのケアとシステムづくりー」

甲斐 一郎 教授

(公共健康医学専攻 老年社会科学分野)

日時：3月9日(金) 15:30~16:30 (開場15:00)

会場：鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)

演題：「医学部における社会科学」

武谷 雄二 教授

(生殖・発達・加齢医学専攻 産婦人科学講座 生殖内分泌学分野)

日時：3月19日(月) 15:30~17:00

会場：鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)

演題：「エストロゲンー誰もが知っている不可解なホ

ルモンー」

三品 昌美 教授

(機能生物学専攻 薬理学講座 分子神経生物学部門)

日時：3月26日(月) 12:50~13:50

会場：鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)

演題：「シナプス制御分子から脳と心へ」

谷口 維紹 教授

(病因・病理学専攻 免疫学講座 免疫学部門)

日時：3月26日(月) 13:50~14:50

会場：鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)

演題：「免疫学の展望」

岡山 博人 教授

(分子細胞生物学専攻 生化学分子生物学講座 分子生物学部門)

日時：3月26日(月) 15:00~16:00

会場：鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)

演題：「私の研究系譜

ーTechnology・Technology・Technology」

清水 孝雄 教授

(分子細胞生物学専攻 生化学分子生物学講座 細胞情報学部門)

日時：3月26日(月) 16:00~17:00

会場：鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)

演題：「リン脂質代謝と脂質メディエーター」

大学院工学系研究科・工学部

久保 哲夫 教授

(建築学専攻 建築構造学講座)

日時：2月21日(火) 15:00~16:30

会場：工学部1号館15号講義室

演題：「建物の振動・耐震に携わって」

小林 郁太郎 教授

(精密工学専攻)

日時：2月22日(水) 15:30~17:00

会場：工学部14号館142号講義室

演題：「光通信開発の30年からインターネットの時代へ」

大久保 誠介 教授

(システム創成学専攻)

日時：2月22日(水) 15:30~17:30

会場：工学部2号館1階212号講義室

演題：「岩石力学と掘削機械」

新井 民夫 教授

(精密工学専攻 精密情報システム工学講座)
日時：3月2日(金) 15:00~16:30
会場：工学部2号館1階213号大講義室
演題：「モノの組立からサービスの組立へ」

小宮山 眞 教授

(化学生命工学専攻)
日時：3月9日(金) 15:00~17:00
会場：工学部5号館51号、52号講義室
演題：「化学とバイオの接点を求めて」

前田 康二 教授

(物理工学専攻)
日時：3月9日(金) 14:00~15:30
会場：工学部6号館63号講義室
演題：「日暮れて」

土井 正男 教授

(物理工学専攻)
日時：3月9日(金) 16:00~17:30
会場：工学部6号館63号講義室
演題：「高分子物理からソフトマター物理へ」

笠木 伸英 教授

(機械工学専攻 機械物理工学講座)
日時：3月16日(金) 15:00~17:00
会場：工学部2号館1階213号大講義室
演題：「熱流体工学から社会のための科学へ」

大学院人文社会系研究科・文学部**盛山 和夫 教授**

(社会文化研究専攻 社会学講座)
日時：3月7日(水) 15:00~17:00
会場：文学部一番大教室(法文二号館)
演題：「理論社会学の可能性をめぐって」

西村 清和 教授

(基礎文化研究専攻 美学芸術学講座)
日時：3月9日(金) 15:00~16:30
会場：文学部一番大教室(法文二号館)
演題：未定

大学院理学系研究科・理学部**久保野 茂 教授**

(附属原子核科学研究センター)
日時：2月20日(月) 16:00~17:30
会場：理化学研究所和光キャンパス・大河内記念ホール
演題：「宇宙と原子核と人間」

山形 俊男 教授

(地球惑星科学専攻 大気海洋科学講座 気候力学分野)
日時：3月1日(木) 16:00~17:30
会場：小柴ホール(理学部1号館中央棟2階)
演題：「気候力学との40年」

青木 健一 教授

(生物科学専攻 人類科学大講座)
日時：3月8日(木) 16:00~17:30
会場：理学部2号館講堂
演題：「旧人・新人の文化の相違と交替劇」

棚部 一成 教授

(地球惑星科学専攻)
日時：3月8日(木) 15:30~17:00
会場：小柴ホール(理学部1号館中央棟2階)
演題：「進化古生物学への道」

岡村 定矩 教授

(天文学専攻)
日時：3月12日(月) 16:30~17:30
会場：小柴ホール(理学部1号館中央棟2階)
演題：「銀河天文学と観測的宇宙論 - 木曾から世界へ -」

松本 良 教授

(地球惑星科学専攻 地球生命圏科学 地圏環境進化学分野)
日時：3月16日(金) 16:00~18:00
会場：小柴ホール(理学部1号館中央棟2階)
演題：「炭酸塩から資源と地球環境を読み解く」

大学院農学生命科学研究科・農学部**宮崎 毅 教授**

(生物・環境工学専攻 環境地水学分野)
日時：3月2日(金) 15:00~16:30
会場：農学部7号館A棟114-115教室
演題：「土の不思議に魅せられて」

寶月 岱造 教授

(森林科学専攻 森林生命環境科学講座 森林植物学研究室)
日時：3月9日(金) 15:00~17:00
会場：農学部1号館8番教室
演題：「樹木と菌類の分子生態学のことなど」

大学院経済学研究科・経済学部

三輪 芳朗 教授

(金融システム専攻 産業組織、金融、法と経済学)

日時：2月15日(水) 16:30~18:00

会場：経済学研究科棟第1教室

演題：「『政府の能力』と日本の経済政策」

大学院総合文化研究科・教養学部

黒田 玲子 教授

(広域科学専攻 生命環境科学系 生命情報学大講座)

日時：3月8日(木) 15:00~16:30

会場：駒場Iキャンパス18号館ホール

演題：「自然界のキラリティー(左右非対称性)に魅せられて」

小宮山 進 教授

(広域科学専攻 相関基礎科学系 基礎科学科 相関自然部会)

日時：3月16日(金) 14:00~15:30

会場：駒場Iキャンパス18号館ホール

演題：「駒場での30年」

氷上 忍 教授

(広域科学専攻 相関基礎科学系 基礎科学科 相関自然部会)

日時：3月16日(金) 16:00~17:30

会場：駒場Iキャンパス18号館ホール

演題：「零と無限大」

船曳 建夫 教授

(超域文化科学専攻 文化人類学コース)

日時：3月17日(土) 16:00~17:00

会場：21KOMCEEレクチャーホール

演題：「駒場で教える」

*3月30日(金)には退職記念セミナーを開催予定

大学院教育学研究科・教育学部

佐藤 学 教授

(学校教育高度化専攻 教職開発コース)

日時：3月10日(土) 15:00~17:00

会場：学士会館202号室(千代田区神田錦町3-28)

演題：「私の教育学研究—これまでとこれから」

大学院薬学系研究科・薬学部

杉山 雄一 教授

(分子薬物動態学教室)

日時：3月16日(金) 13:30~15:30

会場：薬学部講堂(総合研究棟2階)

演題：「分子薬物動態学：Fork in the Road」

大学院情報理工学系研究科

土肥 健純 教授

(知能機械情報学専攻)

日時：3月5日(月) 15:30~17:30

会場：工学部2号館1階213号大講義室

演題：「医療福祉工学の現状と未来」

東洋文化研究所

尾崎 文昭 教授

(東アジア第二研究部門)

日時：3月8日(木) 14:00~15:30

会場：東洋文化研究所3階大会議室

演題：「魯迅の小説『故事新編』についての議論を再検討する」

加納 啓良 教授

(南アジア研究部門)

日時：3月15日(木) 14:00~15:30

会場：東洋文化研究所3階大会議室

演題：「水田とプランテーションから見たインドネシア現代史」

鈴木 董 教授

(西アジア研究部門)

日時：3月15日(木) 16:00~17:30

会場：東洋文化研究所3階大会議室

演題：「文字世界としての文化世界・アラビア文字世界としてのイスラム世界・そしてオスマン帝国—比較史への我が道の一到達点—」

先端科学技術研究センター

御厨 貴 教授

(情報文化社会)

日時：3月10日(土) 17:00~18:30

会場：駒場IIキャンパスAn棟2Fホール

演題：「政治へのまなざし」

*ゲスト：佐々木幹郎、鷺田清一

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第543(12月7日)号、第544(1月11日)号の発行
——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」第543(12月7日)号、第544(1月11日)号が発行されましたので、ぜひご覧ください。

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、駒場保健センターで無料配布しています。バックナンバーもあります。

【第543号の内容】

清水剛 : Graduate Program on Global Societyに
ついて

木宮正史 : 情報学環現代韓国研究センター駒場支所
の開所～駒場の研究拠点と本郷との連携

襦屋光男 : オーストラリアにおけるスポーツの重要
性

塚本健 : 追想 嘉治元郎先生

〈駒場をあとに〉〈送ることば〉

安達裕之 : 殿の記

横山ゆりか : 安達裕之先生を送る

本村凌二 : 駒場のローマ史家は二度退官する

長谷川まゆ帆 : 時の過ぎゆくままに

池田信雄 : 瞬く間の三〇年

鍛治哲郎 : 池田さんをおくる

黒田玲子 : ほんとに定年なんですかあ？

阿部真典 : 黒田玲子先生を送る

山内昌之 : ただ感謝あるのみ——駒場30年

井坂理穂 : 山内先生を送る

湯浅博雄 : きれぎれの感想——感謝とともに

原和之 : 湯浅博雄先生を送る

ポール・ロシター : How to Be Surprised by Life

ブレンダン・ウイルソン : For Professor Paul

Rossiter, on his Retirement

〈時に沿って〉

東大作 : 流転する人生

中島正和 : 分からないから面白い

下村明洋 : 微分方程式論

吉野太郎 : 駒場

小幡博基 : 新天地

学部報委員会 : コーナーストーン

【第544号の内容】

永田敬 : 21 KOMCEEついに始動!!

蜂巢泉 : 2011年のノーベル物理学賞
——宇宙膨張は加速している

岡ノ谷一夫 : コミュニケーションの生物心理学

石井剛 : 四巡目に入った四大学フォーラムについ
て

鹿毛利枝子 : 運営諮問会議の開催～総合文化研究
科・教養学部

〈駒場をあとに〉〈送ることば〉

三角洋一 : 駒場をあとに

ロバート・キャンベル : 三角洋一先生を送る

林文代 : 「人生は歩きまわる影法師 あわれな役
者……」

田尻芳樹 : 林文代先生をおくる言葉

小宮山進 : とりとめのない雑感

前田京剛 : 小宮山進先生をおくる

水上忍 : 駒場の60年

金子邦彦 : 謎とともに去…らないで——氷上先生を
送る

古矢旬 : 離任(と赴任)のごあいさつ

遠藤泰生 : 覚悟の人——古矢さんを送る言葉

北田均 : 駒場との出会い

中村周 : 北田均先生をおくる言葉

玉井哲雄 : 駒場の18年

増原英彦 : 玉井哲雄先生をおくる

〈本の棚〉

山本史郎 : 野矢茂樹著『語りえぬものを語る』
語りえぬものを語るを語る

学部報委員会 : コーナーストーン

お知らせ

国際本部日本語教育センター

日本語教育センター「スポット講座」実施の
お知らせ

本センターでは、通常の各種日本語コース(1学期を通じて開講)のほか、受講生の皆さんから希望の多い内容に特化した数回限りの「スポット講座」を実施しています。今回は、留学生を対象とする内容だけでなく、留学生の日本語学習を支援したい日本人学生のための講座も開講します。関心のある方の幅広い参加をお待ちしています。



■スポット講座「日本語メール ★ 印象アップ！」

対象：本学の外国人留学生（定員40名）

日時：2/1（水）・2/8（水） 15：20～17：00（全2回）

内容：

日本語でメールを書いているものの、書き方が自己流でいまひとつ自信がないという人のための講座です。メールは日常的なコミュニケーションの重要なツールです。日本語のメールの文体や書式のルールを学んで、自然で印象のよいメールを書いて、あなたのコミュニケーション力を磨いてみませんか。

日本語レベル：日本語能力試験2級（またはN2）程度

■スポット講座「日本語でプレゼンテーション」

対象：本学の外国人留学生（定員15名）

日時：2/2（木）・2/9（木） 13：30～17：00（全2回）

内容：

日本語でプレゼンテーションを行う際に必要となる、スライドの日本語の書き方、口頭発表での話し方と、質疑応答のスキルを集中的に学ぶ講座です。

所定の課題論文（申し込み時に配布）をもとに、各自がパワーポイントのスライドを作成し、発表するところまでを実際に体験することができます。（受講者は初回までに、課題論文を読んで事前課題に取り組む必要があります。）

第1回「日本語でスライドを作ろう」

タイトルのつけ方、わかりやすい構成、スライドの日本語表現、ほか

第2回「日本語で発表してみよう」

発表で使われる表現、スライド間の説明のつなぎ方、質疑応答のしかた、ほか

日本語レベル：日本語能力試験1級（またはN1）合格程度以上

■スポット講座「入門！日本語学習サポーター」

対象：日本語を母語とする本学の学生で、留学生に対する日本語学習支援に関心がある方（定員20名）

日時：1/26（木） 15：20～17：00

内容：

世界各国から集まった留学生の日本語学習を手伝ってみませんか。本講座では、「教室で学んだ日本語を使って、もっと練習をしたい」と希望している留学生を効果的に支援するためのポイントを学びます。具体的には、相手の日本語レベルに応じてわかりやすく質問したり説明したりする方法や、会話の際の文化差への配慮の仕方などについてです。また、それらを踏まえて、留学生と実際に話してみる体験も行います。

なお、本講座の受講後、希望者には、本センターの「日本語学習サポーター」として活躍するチャンスが開かれています。外国人が見る日本の姿や、日本語を再発見する面白さにぜひ触れてみてください。

上記すべての講座について、次の点は共通です。

●受講料：無料

●会場：日本語教育センター
（本郷キャンパス・第2本部棟5階）

●申込方法：日本語教育センターのHPから、該当する講座の申込書をダウンロードして、必要事項を記入の上、留学生・外国人研究者支援課（本郷キャンパス・御殿下・「学生支援センター」2階）に持参。

●受付期間：1月10日（火）から（各講座とも先着順で講座ごとの締め切り日まで受付。詳細はHP参照）。

●お問い合わせ：

申込方法等 → 日本語教育センター事務（留学生・外国人研究者支援課）内線：22564（03-5841-2564）

授業内容等 → 日本語教育センター 内線：22563（03-5841-2563）

URL: http://www.nkc.u-tokyo.ac.jp/index_j.html

お知らせ

情報基盤センター

講習会「知っておきたい検索のコツ」など“情報探索ガイダンス”各種コース実施のお知らせ

講習会に参加して、文献の探し方・Webでの文献管理方法を、マスターしましょう！情報基盤センター図書館電子化部門では、定期的に、“情報探索ガイダンス”各種コースを実施しています。

2月は、日本語と英語の代表的文献データベースを対象とした「CiNii Articles & Web of Science：文献検索入門」など、各種コースを実施します。

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どなたでも参加できます。ぜひご参加ください。

※学外からの利用方法はどのコースでも説明します。



■ 2/7 (火) 15:00～16:00

【CiNii Articles & Web of Science：文献検索入門】

普段はインターネットや参考書等で情報を集めているという方、そろそろ文献データベースを使って本格的に学術論文検索をはじめましょう。その第一歩として、日本語論文・英語論文の代表的データベース、「CiNii Articles」と「Web of Science」の基本的な検索方法を実習します。

■ 2/10 (金) 15:00～16:00

【知っておきたい検索のコツ】

「いつも自己流で検索しているが、もっといい検索方法があれば知りたい」という方におすすめのコース。

教わらなくても簡単そうに見えて、意外と難しいのがキーワード検索です。どのように入力すれば欲しい情報が効率良く見つかるのでしょうか。いろいろな検索の種類

と、データベースごとに知っておくと便利な検索のコツを教えます。

■ 2/15 (水) 15:00～16:00

【RefWorksを使うには？】

これからRefWorksを使ってみようという方向けに、Web版の文献管理ツール「RefWorks」の使い方を説明します。

東京大学OPACや、CiNii Articles（日本語論文）、Web of Science（英語論文）など代表的なデータベースからのデータの取り込み方と、参考文献リストの自動作成方法を実習します。

■ 2/16 (木) 15:00～16:00

【論文投稿シミュレーション：JCRとRefWorksを使って】

執筆中のその論文、投稿する雑誌は決めていますか？そして雑誌によって決まりが異なる参考文献リストの書き方、大変だと思いませんか？

雑誌の「インパクトファクター」が、投稿先を決める手がかりのひとつになるかもしれません。参考文献リストの作成にはWeb版の文献管理ツール「RefWorks」を活用してみましょう。文献データの整理～投稿誌の選定～投稿誌の規定に沿った文献リスト自動作成の流れを、2つのツールを使った実習でシミュレーション。

●会場：本郷キャンパス総合図書館1階講習会コーナー（ECCS無線LAN設定済みのノートPC持込OK）

●参加費：無料

●予約不要 各回先着15名。直接ご来場ください。

★授業・ゼミ・学生グループなど対象にオーダーメイドで講習します！

論文の探し方の出張講習・オーダーメイド講習を随時受付中です（無料）。授業やゼミの内容に合わせて講習いたします。会場のことなど、ご相談に応じます。まずはお気軽にお問い合わせください。どのキャンパスでも、学生だけのグループでもOKです。

過去の実施例は以下のURLでご覧いただけます。

(<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/shuccho.html>)

★Litetopiメールマガジン発信中！

本学所属の方を対象に、データベースのニュースや講習会のご案内などをお届けします。配信ご希望の方は、下記アドレスまでメールでご連絡ください。（無料）



literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

●お問い合わせ：

学術情報リテラシー係 03-5841-2649（内線：22649）

literacy * lib.u-tokyo.ac.jp

(*は@に置き換えて送信してください。)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

(ツイッター http://twitter.com/gacos_todai)



お知らせ

大学院理学系研究科・理学部

第74回小石川植物園市民セミナーのご案内

小石川植物園後援会が主催する第74回小石川植物園市民セミナーが下記の通り開かれます。今回は、東京学芸大学自然科学系の岩元明敏助教による、サクラ属植物の分枝様式に関する講演です。サクラ属はその美しい花に注目が集まりがちですが、枝分かれ(分枝様式)も非常に興味深い形態形質の一つです。最近の研究により、サクラ属における分枝様式の多様性や系統との関連が明らかになってきています。植物形態学の新しい成果に触れられる絶好の機会です。本学関係者に限らず、どなたでも参加できます。どうぞ皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

講師：岩元 明敏(東京学芸大学自然科学系)

演題：「枝分かれから見るサクラの多様性～ソメイヨシノはなぜ「美しい」のか～」

日時：2月19日(日) 14:00～16:00

場所：理学系研究科附属植物園本園(小石川植物園)柴田記念館

参加費：無料(但し、一般の方は入園料が必要です)

参加申込方法：2月13日までに、往復葉書または電子メールにて後援会までお申し込み下さい。返信葉書ないし返信メールが招待状となります。なお参加ご希望多数の際は、お申し込み順に従い受付が締め切られることがあります。悪しからずご了承下さい。

主催・参加申込先：〒112-0001 文京区白山3-7-1
東京大学大学院理学系研究科附属植物園内
小石川植物園後援会

koishikawa-koenkai@koishikawa.gr.jp

問い合わせ先：理学系研究科附属植物園
杉山宗隆准教授(03-3814-0368)

お知らせ

大学院医学系研究科・医学部、情報基盤センター

医学図書館「医学系のためのRefWorks講習会」開催のお知らせ

医学図書館は情報基盤センター学術情報リテラシー係との共催で、「医学系のためのRefWorks講習会」を開催します。

RefWorksはWeb上で使える文献管理ソフトです。データベースの検索結果や東大OPACの検索結果などを取り込んで、リスト化やフォルダ分けをしたり、参考文献リストを自動で作成したりしてくれます。昨年よりバージョンが2.0になりました。

今回はこの便利なRefWorksの使い方の講習会を、医学系向けに例題をPubmedなどにして、実際にパソコンを操作しながら講習いたします。文献管理ソフトって便利そうだけど使ったことないという方から、自己流なんだけど・・・という方まで、医学部以外の方も、本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どなたでも参加できます。是非ご参加ください。参加費無料です。

◆日時： 2/29(水)
16:00～17:00(60分間)

◆会場： 本郷キャンパス 医学図書館 1F
マルチメディアコーナー

●定員： 14名 予約優先
(Windows端末14台)

●参加費： 無料

◆申込み

以下の内容をご記入の上、医学図書館情報サービス係(medlibs@m.u-tokyo.ac.jp)宛に、メールをお送りください。

Subject(件名)：RefWorks講習会参加希望

(1)氏名 (2)身分・学年 (3)所属部局・研究室 (4)連絡先

◆お問い合わせ先

医学図書館 情報サービス係

Tel: 03-5841-3667(平日9:00～12:00, 13:00～17:00)

medlibs@m.u-tokyo.ac.jp

<http://www.lib.m.u-tokyo.ac.jp/index.html>

お知らせ

大学院農学生命科学研究科・農学部

平成23年度第4回技術職員研修会開催のお知らせ

本年度農学生命科学研究科技術職員研修会を下記の通り開催します。本年度は、昨年度竣工し高い利用率を誇るフードサイエンス棟一階【中島薫一郎記念ホール】にて開催いたします。

本年度の研修会のテーマは【研究支援】です。各施設での研究支援を、色々な方面からとらえた発表を予定しております。

研究科内の技術職員に限らず、他部局の技術職員・教員・事務職員・学生等どなたでも参加できます。当日参加も受け付けておりますので奮ってご参加下さい。

日時：3月1日（木）13：00～3月2日（金）12：00
会場：フードサイエンス棟一階 中島薫一郎記念ホール
<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/nakashima/index.html>

内容：

3月1日（木）

13：00 研究科長挨拶

13：10 基調講演

「農学教育で期待される技術職員の役割」

森林生命環境科学 造林学 丹下健 教授

「農場実習：最近における改革とその成果」

基礎生物学領域 栽培学 根本圭介 教授

14：30 休憩

14：40 技術職員口頭発表

17：30 懇親会（農学部3号館地下1階）

3月2日（金）

9：00 技術職員ポスター発表

10：30 退職者講演

附属演習林 後藤太成 技術専門員

技術基盤センター 中谷操子 技術専門員

12：00 閉会挨拶 研究科長補佐 下村彰男 教授

*受付は3月1日（木）12：00から「フードサイエンス棟一階ロビー」にて行います。

問合せ先：附属牧場 遠藤麻衣子

Tel：0299-45-2606（代表）

E-mail：amaimai@meil.ecc.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

低温センター

「第3回低温センター研究交流会」開催のお知らせ

低温センターでは、本年度も「低温センター研究交流会」を以下の通り開催します。当センターを利用して得られた研究成果を積極的に発表いただき、異分野間の学内研究交流を図る機会ですので、奮ってご参加下さい。交流会終了後、引き続き「利用者懇談会」を開催しますので、こちらも併せてぜひご参加下さい。リラックスした雰囲気の中で、利用者同士、利用者とセンター教職員の情報交換並びに相互理解の場としてご活用いただきたいと考えています。

日時：3月5日（月）

10：00～17：50（研究交流会）

18：00～20：00（利用者懇談会）

会場：小柴ホール（理学部1号館中央棟2階）

参加費：無料（利用者懇談会は2,000円）

対象：学内の方ならどなたでも参加できます

定員：170名（事前申込不要）

問い合わせ先：低温センター共同利用部門

Tel: 03-5841-2864 (22864)

E-mail: openlab@crc.u-tokyo.ac.jp

<http://www.crc.u-tokyo.ac.jp/kenkyukoryu/h23/>

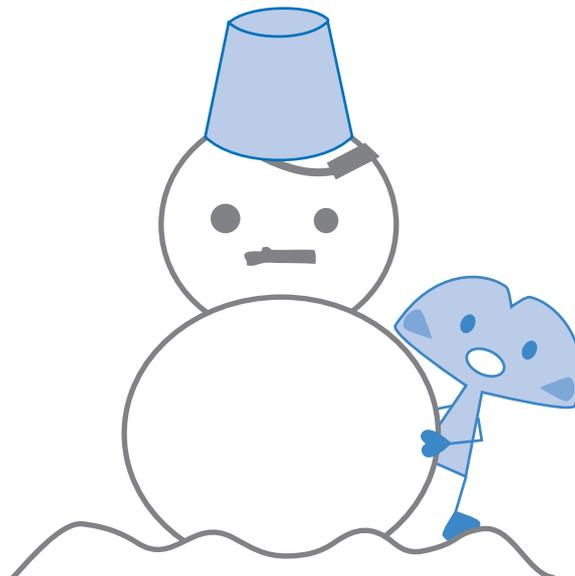
人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

発令日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
23.12.31	玉置 泰裕	辞 職	大学院医学系研究科准教授
23.12.31	加納 英明	辞 職（筑波大学数理物質系准教授）	大学院理学系研究科准教授
23.12.31	小田 克郎	辞 職	生産技術研究所准教授
（採 用）			
23.12.16	源河 達史	大学院法学政治学研究科准教授	
24.1.1	大瀧 友里奈	大学総合教育研究センター准教授	東京大学大学総合教育研究センター特任助教
24.1.1	上西 幸司	大学院工学系研究科准教授	神戸大学自然科学系先端融合研究環都市安全研究センター准教授
（昇 任）			
23.12.16	長村 文孝	医科学研究所附属先端医療研究センター教授	医科学研究所附属病院准教授
23.12.16	三室 仁美	医科学研究所附属感染症国際研究センター准教授	医科学研究所講師
24.1.1	成瀬 剛	大学院法学政治学研究科准教授	大学院法学政治学研究科講師
24.1.1	田中 栄	大学院医学系研究科教授	大学院医学系研究科准教授
24.1.1	相原 一	大学院医学系研究科准教授	医学部講師
24.1.1	山川 隆	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科准教授
24.1.1	澤田 康幸	大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センター教授	大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センター准教授

※ 退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。



卒業生室からのお知らせ



外国人卒業生向けに メルマガ配信中！ 情報をお寄せください！

卒業生室では外国人卒業生の方々に月1回メールマガジン(英語版)を配信しています。日本在住の外国人卒業生はもちろん、海外在住の外国人卒業生にとっては母校とつながる大切な情報源です。外国人卒業生とのネットワーク作り強化のため、皆さまの協力をお願いします。彼らに向けたメッセージ、発信したい情報等があれば、ぜひ原稿をお寄せください。

1. 配信スケジュール

英語版は毎月第3木曜日に配信中。(祝日・大学暦等により前後する場合あり)

※日本語版は毎月第2、第4木曜日配信

2. 形態

メルマガで概略を紹介し、詳細は部局のサイトにリンクします。

3. 配信する情報

海外で開催されるイベント、国際交流、英語の新設サイト情報等、国内外の外国人卒業生に有用な情報

4. 送付方法

毎月第1週に編集会議を開催しています。配信をご希望の方は月初めを目安に、下記提出先まで以下の情報をメールにて送付してください。

- ①掲載を希望される情報の概要(日本語でもOKです)(250字~300字程度。メルマガ本文に記載します)
- ②掲載を希望される情報のURL

5. 留意事項

編集、配信スケジュールによって掲載できない場合があります。事前にお問い合わせください。

6. 問い合わせ先・提出先

卒業生課
03-5841-1216 内線21216
E-mail: tft@adm.u-tokyo.ac.jp

メルマガを見た卒業生のコメント



I think it is fabulous that you are doing this and very smart.

メルマガを送っていただきありがとうございます。ゼミ授業の延長として日本語のメルマガも読みたいです。

您的来信已收到，谢谢！



あなたの撮った写真を 学内広報や 東大facebookページに 載せませんか？

学内広報では、教職員の皆さんが撮影した写真を募集します。あなたも自らの写真の腕を学内で披露してみませんか？

■応募条件

1. 東大のキャンパス内で撮影した写真であること
本郷に限らず、東大の敷地内ならどのキャンパスでも可。また、キャンパス内で撮った写真であれば、風景写真でなくても可。人、動物、モノが写った写真でもかまいません。
2. デジタルデータで送付すること
撮影はデジタルカメラ、あるいはカメラ付き携帯電話で行い、デジタルデータ(jpeg、tifのいずれか)をメール添付で送ってください。
3. 1回の応募につき3枚まで受付
多量の写真データ送付はご遠慮ください。
(添付ファイルの合計容量は5MBまで)

■掲載基準&掲載方法

学内広報編集スタッフが独断と偏見に満ちたセレクション(笑)を行い、スペースの空いたページに掲載します。掲載の際には、「作品名」と「撮影者」のクレジットを記載します(匿名希望も可)。また、良い写真が多数集まった場合は、応募写真を紹介する特集なども予定しています。
また、ご投稿いただいた写真を東大facebookページにも掲載させていただく可能性があります。

URL: <http://www.facebook.com/Todai.News>

■締切

特にありません。良い写真が撮れたら送ってください。

■送付先

本部広報課広報企画チーム
「学内広報写真募集係」まで。
E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

見本園にて



満開のツワブキ。懐徳門から入ってすぐの理学部2号館の見本園にて。神奈川県逗子市産の種子から育てた個体です。花色の薄いものはウスギツワブキといえます。

(撮影： 理学系研究科 塚谷裕一さん 2011年11月撮影)

生研銀杏



正門広場の一号館前にひっそりと佇む。
(撮影： 生産技術研究所 川井秀夫さん)

ヒマラヤザクラ



あまり目立たないところにひっそりと咲いています。
11月下旬からかなり咲いていました。

(撮影： 本部入試課 小西正晃さん 2011年12月撮影)

三四郎池 ～晩秋～



池の水面に浮かぶ色とりどりの落ち葉に見え隠れする鯉（コイ）を目で追っていた、その時、美禰子かと思える美しい人に声をかけられる。恋（コイ）！否！写真のお願いで、背景や構図を考えながらカメラを向けるとその人は眩いたようであった。「バックに文学碑か三四郎像があればねエ」と。
(撮影： 文学系研究科 田中善和さん)



「学内広報」ニュース・インフォメーション記事提出要領

作成例

本部広報課

「キャンパスツアー」スタート!

本学学生がツアーガイドとなって、赤門や大講堂(安田講堂)、三四郎池、総合図書館など、本郷キャンパス内の名所旧跡を案内する「キャンパスツアー」が今年も始まった。キャンパスツアーは昨年度から実施されており、「ジュニアTA制度」に基づき応募した学生が、東京大学の歴史や学生生活のエピソードを交えながら、約2時間にわたり案内する。

今年度のスタートとなった5月14日(土)には、午前、午後合わせて43人が参加し、ツアーガイドの説明に熱心に耳を傾けていた。



広報センター前で説明するガイドとそれを聞く参加者

ツアーには、高校生以上であれば誰でも無料で参加することができる。今後のツアーは、五月祭期間や年末年始、入試期間を除く授業期間の土曜日と日曜日(10:00~12:00、14:00~16:00)に行われる予定である。



正門から大講堂に続く銀杏並木

記事の冒頭に**部局名**を記載

簡潔で分かりやすい**タイトル**を記載

- ・過去の報告記事(ニュース)では「**である調**」を用いる
- ・今後のお知らせ(インフォメーション)では「**ですます調**」を用いる

日付には括弧書きで**曜日**をつける

- ・写真を掲載する場合は、25文字以内で**キャプション**(写真の説明文)をつける。写真は3枚程度まで
- ・原稿とは別に、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを別途送付する(プリントの写真は学内便で送付)

句読点は「**、**」「**、**」を用いる

時間は**24時間表記**とする

- ・記事は一行25文字の書式で作成する。
- ・文字数は800字を目安とするが、内容によって増減は可とする。
- ・人物名は**フルネーム**で表記すること。

提出上の注意

1. 提出方法

記事は、各部局の広報担当者を通して、メールの添付ファイルとして送付すること。
(学内広報担当者の個人アドレスではなく、必ず下記のアドレスに送付してください。)

2. 締切日

HPで発行スケジュールを確認すること。
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html
トップページ> 広報・情報公開> 学内広報

問い合わせ先・提出先

本部広報課広報企画チーム
TEL: 03-3811-3393(内線: 82032)
E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

※原稿を受け取った後、学内広報担当者から、必ず**受領メール**をお送りしています(概ね1週間以内)。返信メールが届かない場合は、何らかのトラブルで原稿を受け取れていない可能性がありますので、その際はお問合せ願います。

第62回駒場祭開催

平成23年11月25日(金)～27日(日)の3日間、東京大学駒場 I キャンパスにおいて、駒場祭委員会主催の第62回駒場祭が開催されました。今回のテーマは、祭を通して日本を元気づけるという「祭生」。来場者数は約95,000人に上り、開催期間中、キャンパス内は賑やかな雰囲気に包まれました。



【各種企画】

出店やステージパフォーマンス、各種の展示企画、参加者体験企画など多彩な企画が行われました。



公式マスコットキャラクター
こまっけろ

学園祭グランプリMVP受賞!

イベント情報サイト「レッツエンジョイ東京」の主催する「第3回学園祭グランプリ」において、昨年度に引き続き、駒場祭が2年連続でグランプリを獲得しました。幅広い層の楽しめる多彩な企画や、エコへの取り組みなどが評価されました。



【学術企画】

理系から文系まで、幅広い分野の企画が出展しました。竣工されたばかりの21KOMCEEでは、教室の特徴を生かしたユニークな学術企画が開催されました。



【委員会本部企画】

建築家の隈研吾氏の講演会や、各種の公開講座が開催され、いずれも満員の大盛況でした。来場した子ども達も楽しめるようにと企画された「こまっけろランド」も大人気でした。

学内関係者の皆様、ご来場の皆様にご協力いただき、今年度の駒場祭も無事に終えることができました。この場を借りて深く御礼申し上げます。来年度もよろしくお願いいたします。

本件連絡先: 教養学部等学生支援課学生支援係
TEL:03-5454-6073(内線:46073)

Contents

特集

- 02 高校生のためのオープンキャンパス2011開催

NEWS

一般ニュース

- 06 海洋アライアンス
海洋教育促進研究センター (RCME)・日本財団共催
第3回シンポジウム「海は学びの宝庫～海洋教育の研究と実践～」
- 06 本部留学生・外国人研究者支援課
「東京大学外国人留学生特別奨学制度平成23年度10
月期研究奨励費受給者証書授与式」を開催
- 07 本部施設企画課
小石川植物園フェンス・デザインコンペティション表
彰式を開催！
- 08 本部留学生・外国人研究者支援課
平成23年度第2回「外国人留学生支援基金奨学生証
書授与式」開催される
- 08 本部学務課
平成23年度教育実習・介護等体験報告会及び懇談会
を開催
- 09 海洋アライアンス
中学生を対象にしたミニ講義を行う
- 10 本部総務課
2011年度業務改革総長賞表彰式の開催
- 11 高齢社会総合研究機構
釜石市平田運動公園の「仮設のまち」が完成

部局ニュース

- 13 史料編纂所
史料編纂所社会連携研究部門公開シンポジウム「図
書館所蔵史料のデジタル化公開方式」開催
- 13 大学院薬学系研究科・薬学部
全学教職員懇話会開催
- 14 生産技術研究所
秋の風物詩、千葉実験所公開が開催される
- 14 生物生産工学研究センター
2011年度国際シンポジウム開催される
- 15 大学院人文社会系研究科・文学部
外国人留学生見学旅行を実施
- 16 大学院教育学研究科・教育学部
世界授業研究会、教育学部附属中等教育学校にスク
ールビジット
- 17 大学院経済学研究科・経済学部
留学生見学旅行を実施
- 18 大学院工学系研究科・工学部
TMIシンポジウム2011「日本のエネルギー戦略を考
える」
- 19 大学院工学系研究科・工学部
光量子科学研究センター・レーザーアライアンス 合
同シンポジウム/第13回 先端光量子科学アライア
ンスセミナーが開催される
- 19 医科学研究所
医科学研究所附属病院でクリスマス・コンサート開か
れる
- 20 大学院農学生命科学研究科・農学部
動物慰霊祭開催される
- 20 大学院工学系研究科・工学部
ヴァヌアツ共和国への救急車贈呈に協力

◆表紙写真◆

「トイレットペーパーによる龍」(折り紙サークルOrist提供)

キャンパスニュース

- 22 本部留学生・外国人研究者支援課
平成23年度外国人学生数－国費外国人留学生数
1,053人、私費外国人留学生数1,993人 外国政府派
遣留学生数33人、その他の外国人学生(在日外国人
学生)数294人－

コラム

- 26 総長連載 President's Improvisation Vol.6
- 27 ひょうたん島通信 第1回
- 28 決算のDOOR ～数字が語る東京大学 第16回
- 28 インタープリターズバイブル vol.54
- 29 Crossroad 産学連携本部だより vol.74
- 30 Policy + alt vol.28
- 31 ASIAN DIVERSITY No.15
- 31 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第71回
- 32 コミュニケーションセンターだより No.84
- 32 救援・復興支援室より No.8
- 33 東京大学伊藤国際学術研究センター、オープン間近！

INFORMATION

お知らせ

- 34 退職教員の最終講義
- 37 大学院総合文化研究科・教養学部
「教養学部報」第543(12月7日)号、第544(1月11日)
号の発行
——教員による、学生のための学内新聞——
- 37 国際本部日本語教育センター
日本語教育センター「スポット講座」実施のお知らせ
- 39 情報基盤センター
講習会「知っておきたい検索のコツ」など“情報探索
ガイドダンス”各種コース実施のお知らせ
- 40 大学院理学系研究科・理学部
第74回小石川植物園市民セミナーのご案内
- 41 大学院医学系研究科・医学部、情報基盤センター
医学図書館「医学系のためのRefWorks講習会」開催
のお知らせ
- 41 大学院農学生命科学研究科・農学部
平成23年度第4回技術職員研修会開催のお知らせ
- 41 低温センター
「第3回低温センター研究交流会」開催のお知らせ

事務連絡

- 42 人事異動(教員)

巻末特集

- 46 第62回駒場祭開催

淡青評論

- 48 夢を語ろう

編集後記

毎年1月号は干支にちなんだ表紙写真を掲載しています。で、辰年の今回は、折紙サークルOristの作品『トイレットペーパーによる龍』が表紙を飾りました！ 3年前、学内広報1390号表紙でOristの作品を紹介して以来、マスコミからも頻りに取材されるようになったため、今や、彼らは有名人。折紙に関する著書も講談社から2冊上梓しています。興味のある方はぜひ、ご覧ください。というわけで、皆様、今年も学内広報を何卒お引き立てのほど、お願いいたします。(し)



七徳堂鬼瓦

夢を語ろう

もう25年も前の話になるが、私が学生のころの東大薬学部では、D. J. Cramの書いた「有機化学」を教科書として使っていた。「ホスト-ゲスト化学」の分野で1987年に、Pedersen、LehnとともにNobel化学賞を獲ることになるCramである。教科書の裏表紙か何かに、「人生の中で有機化学ほど楽しいことを知らない」というCramのコメントが載っていたと記憶している。バブル世代の大学生で、外に楽しいことが山ほどあり、有機化学なんてこの世で最も退屈な講義だと思っていた私は、人生で何が起る

とここまで自信を持ってそんなことが言えるんだと、Cramのあまりの断言調の言い方に驚愕にも似た違和感を持った思った覚えがある。ところが25年くらいたった私は今、彼と同じことを学生に言っている。どこでこんなにも変わったのか考えてみると、残念ながら日本だけではなく、博士研究員として米国のウイスコンシン大学で有機化学と生命科学の境界領域の研究を行ったときであったように思える（遅っ！）。給料を貰うプロフェッショナルの研究職に置かれていたわけだが、いい教育をしてもらったなと心から感謝している。自分の経験を一般化はできないが、変節の原因を考えると、20~30年と言った比較的長期的な視野に立った研究テーマ設定力の差なのかと漠然と思っている。夢の大きさの違いともいうべきか。法螺と夢は紙一重だと陰で自笑しながらも、この研究の先に何かあるのかを必死に学生に伝えたい。「できることをやってもしょうがない」研究生活を、狂わずにもがき続けるためのエンジンは夢しかない。夢を自分で描ける学生を育てる必要がある。夢を描けない研究者は、他人の夢の奴隷になるだけだ。なんてことを、15年ぶりにウイスコンシン大学に今度は招待してもらって訪れて、時差ぼけが治らない夢見心地の中で書いている。Cramも夢の多い人だったんだろうな。ちなみにCramの人生は少年ジャンプで、漫画として取り上げられた。

金井 求（大学院薬学系研究科・薬学部）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報室の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報室までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報課を通じて行ってください。

No.1421 2012年 1月25日

東京大学広報室

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学本部広報課

TEL : 03-3811-3393

e-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

<http://www.u-tokyo.ac.jp/>